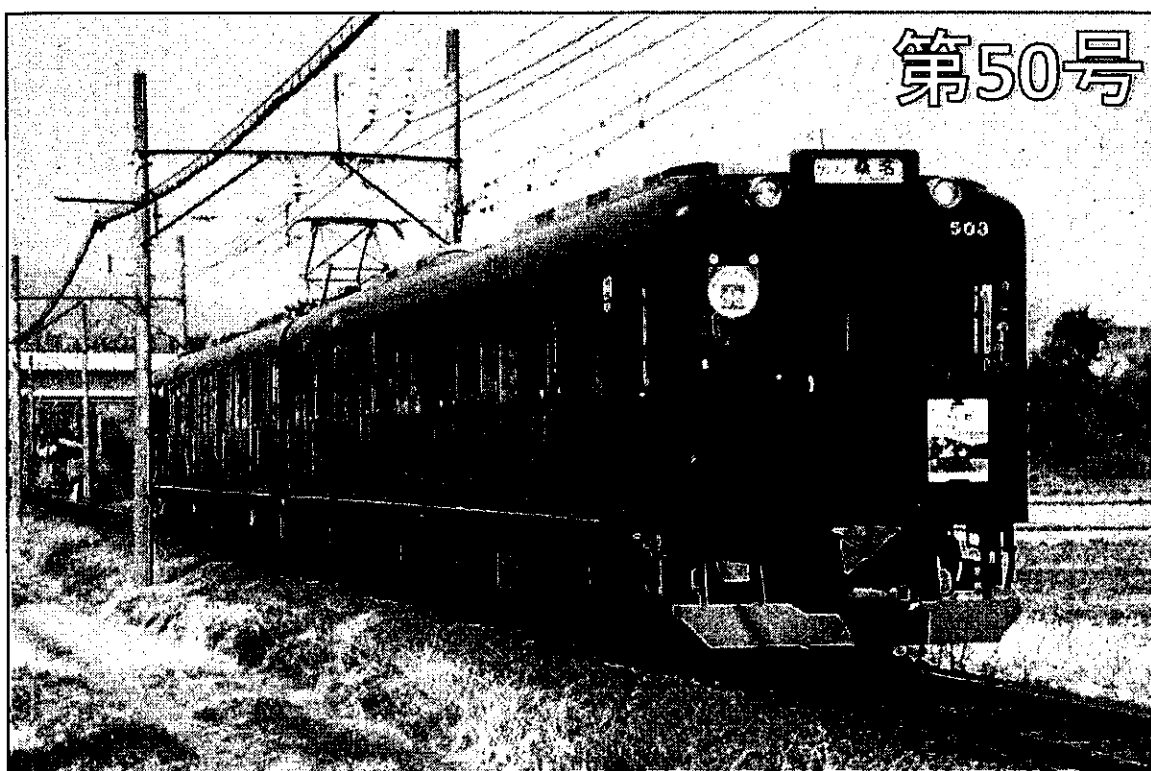


消防年報 2019



養老鉄道

養老町消防本部

町民憲章実践のまち

当町は、海拔ゼロメートルに近い低湿地帯から標高八百メートルの山地までの地勢にあり、水と緑に恵まれた歴史のまちです。このすばらしい自然を生かし、町民が健康で心豊かに安心して住めるまち、誇れるふるさと、花づくりを通じて美しいまち“養老”を築きあげるものであります。

そしていま、約29,000町民の真の実践を通して新しい時代、新しい環境に適合する人間づくりが、町民のなかにほうはいとして湧きあがっています。

あいさつあふれる明るいまち、力いっぱい働ける楽しいまち、町名にふさわしい、老後も豊かなまちは、町民みんなの、すぐそばにある理想郷でもあります。そこには、やはり、災害のないまち、安心して住めるまちがまちづくりの基本であります。一層のお力添えをおねがい申し上げます。



養老町長
大橋 孝

養老町民憲章

わたしたちの町、養老町は、緑の山、清らかな水に恵まれた歴史の町です。

わたしたちの、この美しいふるさととは、先人のたゆまぬ努力によって伸びつづけてきました。

わたしたちは愛の輪をさらにひろげ、力をあわせて未来につづく明るい町をつくれます。

1. おはよう こんにちは と元気な声がわく町にしましょう
1. 美しい自然の中で力いっぱい働ける町にしましょう
1. おとしよりが豊かにくらせる町にしましょう

は し が き

この消防統計書は平成30年中の養老町、大垣市上石津町における消防諸般の状況を集録し、併せて累年の消防状況を比較検討し、今後の火災予防の資料にすることを目的として編さんしたものです。

今後消防行政の向上発展の資料となり、関係各位のご支援とご協力をいただければ幸いと存じます。

令和元年6月

養老町消防本部

全国統一防火標語

平成29年度

火の用心 ことばを形に 習慣に

平成30年度

忘れてない？ 財布にスマホに 火の確認

令和元年度

ひとつずつ いいね！で確認 火の用心

目 次

はしがき		覚知別通報件数	37
消防の沿革	1	救急出場件数（過去3年間）	37
消 防 情 勢		時間別救急出場件数	38
養老町・大垣市上石津町 勢	13	曜日別救急出場件数	38
消防予算	13	事故種別・年令区分別搬送人員	39
消防予算と町予算の累年比較	13	救急医療情報システム案内状況（診療科目別）	40
消防組織（機構）	14	救急医療情報システム案内状況（通報別）	40
人口等に対する消防力の比較	14	普通救命講習等受講者数	41
消防本部、消防署、事務分掌表	15	救 助	
署事務分掌表	17	事故種別救助活動・出場車両状況	42
消防力の整備指針と現有消防力との比較	18	救助活動に関する一覧表	43
消防職員年令調	19	予 防 事 務	
特殊技術資格所有者調	20	防火対象物調	45
消防職員教養状況調	20	消防用設備等の指導	46
消防職員在職年数調	21	対象物別消防用設備状況	46
消防本部（署）消防ポンプ等配備表	21	危険物製造所等地区別現況表	47
救助隊保有救助器具表	21	類別危険物製造所等調	47
指令系統図	22	数量別危険物製造所等調	48
消防団		危険物製造所等設置変更許可件数表	48
消 防 団	23	危険物製造所等完成検査済証交付件数表	48
消防団機構	23	建築同意構造統計表	49
養老町消防団表彰歴	24	建築同意工事別統計表	49
養老町消防団現勢力	26	各種届出処理状況	49
養老町消防団員在職年数調	26	業態別建築物確認申請同意状況	50
養老町消防団ポンプ配置表	27	気 象	
図 表		月別気象	51
養老町消防ポンプ配置図	28	雨量統計	52
養老町火災発生分布図	29	雨量統計（過去5年間）	52
大垣市上石津町火災発生分布図	30	月別湿度表	53
火災件数・損害額表	31	月別気温表	53
消防水利の現況	32	女性防火クラブ	
火 災		女性防火クラブ連絡協議会役員名簿	54
火災統計	33	養老町女性防火クラブ連絡協議会	
覚知別件数	34	分会及び会員数	55
出火原因別火災件数	34	少年消防クラブ・幼年消防クラブ	
月別火災件数（過去3年間）	35	少年消防クラブ名及びクラブ員数	56
月別火災状況	35	幼年消防クラブ名及びクラブ員数	56
救 急			
地区別救急出場件数（養老町）	36		
地区別救急出場件数（大垣市上石津町）	36		

消 防 の 沿 革

年 次	で き ご と
昭和 29 年 11 月 3 日	高田町、養老村、広幡村、上多度村、池辺村（大字駒野新田、大字釜段宇徳島を除く）、笠郷村、小畑村、多芸村、日吉村、不破郡合原村大字室原の区域を合併し、養老町新設に伴い、養老町連合消防団を設置し高田、養老、広幡、上多度、池辺、笠郷、小畑、多芸、日吉、室原の各地区に消防団を置く。定数 1,036 名。連合消防団長に内堀保一氏就任。
昭和 30 年 4 月 1 日	海津郡南濃町の一部が吸収合併となり、上多度消防団に編入。組織変更のため笠郷消防団を増員。日吉消防団に室原消防団を統合。 9 分団、定数 1,067 名とする。
昭和 31 年 4 月 1 日	組織変更のため定数 1,015 名とする。 （高田、笠郷、日吉消防団の組織変更）
昭和 32 年 3 月 1 日	養老町連合消防団を発展的解団し、養老町消防団を設置。定数 894 名に減員。初代団長に津田潔氏就任。
昭和 37 年 12 月 1 日	養老町消防団施設整備 5 ヶ年計画を樹立する。
昭和 38 年 1 月 28 日	養老町消防団常備部を発足（消防車 1 台、小型ポンプ 1 台、部員 10 名を配置）するとともに、非常備消防団員を 685 名に減員する。
昭和 38 年 8 月 20 日	ニッサンジープ消防車を購入。8 月 28 日第 6 分団（笠郷）に配置す。
昭和 38 年 10 月 1 日	ニッサン消防車（タンク水槽付 1,500ℓ）購入。町消防団常備部に 2 号車として配置。
昭和 39 年 2 月 28 日	養老町消防団常備部に消防無線電話基地局 1 基、移動局 1 基を設置し運用開始。
昭和 39 年 4 月 1 日	養老町消防団常備部に部員 2 名増員、総員 12 名となる。
昭和 39 年 12 月 3 日	養老町消防団常備部に部員 1 名増員、総員 13 名となる。
昭和 39 年 12 月 4 日	ニッサンジープ消防車購入。第 9 分団（日吉）に設置。
昭和 40 年 4 月 1 日	養老町消防団常備部 1 名役場へ異動、総員 12 名となる。
昭和 40 年 10 月 26 日	美津濃(株)養老工場へ天皇、皇后両陛下幸啓につき団員奉迎。
昭和 41 年 4 月 8 日	養老町消防団常備部に部員 2 名増員、総員 14 名となる。
昭和 41 年 8 月 1 日	養老町消防団常備部分駐所を根古地地区に新設のため起工式を行う。 （鉄骨平屋建て 111.6 ㎡）
昭和 41 年 10 月 20 日	養老町消防団常備部に部員 3 名増員、総員 17 名となる。
昭和 41 年 11 月 5 日	養老町消防団常備部分駐所竣工につき、消防車、小型ポンプ各 1 台を配置し、

昭和 41 年 12 月 12 日	部員 6 名をもって開所。
昭和 41 年 12 月 16 日	津田 潔団長、町長に就任につき退団、後任として伊藤信義氏団長に就任。 養老町消防団常備部分駐所消防車に消防専用無線電話、移動局 1 基を設置し運用を開始。
昭和 42 年 4 月 1 日	養老町消防団常備部に部員 1 名増員、総員 18 名となる。
昭和 42 年 4 月 1 日	常備消防強化に伴い、団員 536 名に減員。また、町消防団施設整備要綱全部を改正し、施設の強化を図る。
昭和 42 年 6 月 1 日	養老町内消防水利に指定消防水利標識を設置。
昭和 42 年 8 月 5 日	小型ポンプ（ラビット）3 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）、第 4 分団第 3 部（有尾）、第 6 分団第 6 部（大野）配置。
昭和 42 年 9 月 5 日	小型ポンプ（トーハツ）及び積載車（トヨペット）購入し第 7 分団に配置。
昭和 42 年 9 月 21 日	養老町消防団常備部に部員 1 名増員、総員 19 名となる。
昭和 43 年 2 月 20 日	ニッサンセドリックバン救急車 1 台購入。町消防団常備部に配置し、救急業務を開始。
昭和 43 年 3 月 2 日	養老町消防団常備部に部員 1 名増員、総員 20 名となる。
昭和 43 年 3 月 18 日	養老町消防団常備部救急車に、消防専用無線電話、移動局 1 基設置し運用を開始。
昭和 43 年 7 月 16 日	積載車（トヨペット）2 台、小型ポンプ（ラビット）3 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）積載車 1 台、第 1 分団第 4 部（押越）小型ポンプ 1 台、第 2 分団第 2 部（竜泉寺）小型ポンプ及び積載車各 1 台、第 5 分団第 3 部（大場）小型ポンプ 1 台を配置。
昭和 43 年 8 月 13 日	自治体消防制度 20 周年記念県大会（常陸宮、同妃殿下ご臨席）に、町消防団、婦人消防隊、少年消防隊より 90 名参加。
昭和 43 年 9 月 10 日	飛騨川バス転落事故者遺体捜索のため町消防団より 30 名が出動。
昭和 44 年 4 月 1 日	養老町消防本部、署設置条例が公布され、ここに養老町消防本部、署が誕生し、消防業務を行うことになった。 初代消防長に津田 潔氏就任。総員 22 名となる。
昭和 44 年 4 月 8 日	町民センターにおいて開署式を行う。
昭和 44 年 5 月 13 日	小型ポンプ（トーハツ）6 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、同第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（飯ノ木）、第 5 分団第 2 部（釜段）、第 6 分団第 2、3 部（下笠北、上之郷）に配置。
昭和 44 年 6 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 23 名となる。
昭和 44 年 8 月 11 日	消防職員 1 名増員、総員 24 名となる。
昭和 45 年 1 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 25 名となる。
昭和 45 年 5 月 2 日	消防職員 1 名退職、総員 24 名となる。
昭和 45 年 5 月 18 日	トヨタマーク II ライトバン 1 台購入。本部車兼指令車兼救急車として養老消防署に配置。

昭和 45 年 9 月 11 日	町内 14 婦人消防隊を統合し、養老町婦人消防隊を結成、初代隊長に三浦美佐子氏就任。隊員数 1,722 名。
昭和 45 年 9 月 12 日	全消防団員に作業服を購入し、貸与する。
昭和 45 年 10 月 8 日	小型ポンプ（トーハツ）付積載車（45 年式トヨタスタウト）1 台購入。第 5 分団第 5、6 部（大巻）に配置。
昭和 46 年 1 月 8 日	毎月 8 日「町民防火の日」とする旨宣言し、自主防火の推進を図ることを決議した。
昭和 46 年 3 月 15 日	消防職員 2 名増員、総員 26 名となる。
昭和 46 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名増員、総員 27 名となる。
昭和 46 年 7 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 28 名となる。
昭和 46 年 7 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 27 名となる。
昭和 46 年 8 月 4 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 2 分団第 3 部（養老公園）、第 7 分団第 2 部（大坪）に配置。
昭和 46 年 9 月 30 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 26 名となる。
昭和 46 年 10 月 1 日	消防職員 1 名役場より異動、総員 27 名となる。
昭和 46 年 12 月 1 日	三菱ジープを高木組より寄付を受け、指令車として養老消防署に配置。
昭和 47 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 30 名となる。
昭和 47 年 8 月 11 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 2 分団第 1 部（沢田）、第 7 分団第 2 部（飯田）に配置。
昭和 47 年 8 月 19 日	消防車（ニッサン）1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 47 年 12 月 6 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）に配置。
昭和 47 年 12 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 29 名となる。
昭和 48 年 3 月 20 日	消防職員 1 名増員、総員 30 名となる。
昭和 48 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 31 名となる。
昭和 48 年 4 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 30 名となる。
昭和 48 年 5 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 29 名となる。
昭和 48 年 7 月 1 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 28 名となる。
昭和 48 年 8 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 29 名となる。
昭和 48 年 8 月 9 日	小型ポンプ（トーハツ）4 台購入。第 4 分団第 4 部（一色）、第 5 分団第 1 部（根古地）、第 9 分団第 1 部（橋爪）、第 9 分団第 3 部（室原）に配置。
昭和 48 年 9 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 30 名となる。
昭和 48 年 11 月 1 日	岐阜県婦人防火クラブ運営協議会長より表彰を受ける。
昭和 49 年 1 月 4 日	消防職員 1 名増員、総員 31 名となる。
昭和 49 年 3 月 5 日	消防職員 1 名増員、総員 32 名となる。
昭和 49 年 3 月 31 日	消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 31 名となる
昭和 49 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名役場より異動、総員 32 名となる。
昭和 49 年 4 月 12 日	岐阜県消防長総会が本町で開催される。

昭和 49 年 8 月 3 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 8 分団第 1 部（三神町）に配置。
昭和 49 年 9 月 3 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 7 分団第 1 部（祖父江）、第 8 分団第 2 部（直江）に配置。
昭和 49 年 9 月 25 日	消防職員 1 名退職、総員 31 名となる。
昭和 49 年 12 月 5 日	日本赤十字社岐阜県支部より半額補助を受け、トヨタマーク II ライトバン 1 台購入。救急車として養老消防署に配置。
昭和 50 年 3 月 31 日	消防職員 2 名役場へ異動、総員 29 名となる。
昭和 50 年 4 月 1 日	伊藤信義団長退団につき栗田實氏が消防団長に就任。
昭和 50 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 31 名となる。
昭和 50 年 4 月 1 日	消防職員 1 名役場より異動、総員 32 名となる。
昭和 50 年 8 月 31 日	消防事務吏員 1 名退職、総員 31 名となる。
昭和 50 年 9 月 8 日	消防事務吏員 1 名増員、総員 32 名となる。
昭和 50 年 9 月 10 日	財団法人日本船舶振興会よりトヨタハイエース（RH11V）1 台寄付、救急車として養老消防署に配置、10 月 1 日より救急業務に従事。
昭和 50 年 9 月 30 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 1 部（鷺巣）、第 5 分団第 4 部（瑞穂）に配置。
昭和 50 年 10 月 3 日	新消防庁舎建設起工式を行う。
昭和 50 年 10 月 31 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 3 分団第 1 部（ロヶ島）に配置。
昭和 51 年 2 月 15 日	小型ポンプ（トーハツ）1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 51 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 33 名となる。
昭和 51 年 7 月 14 日	新消防庁舎竣工。延べ面積 856.31 ㎡。
昭和 51 年 8 月 24 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 4 分団第 2 部（小倉）に配置。
昭和 51 年 8 月 24 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 5 部（烏江）、第 5 分団第 7 部（小坪）、第 6 分団第 5 部（船附）に配置。
昭和 52 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 34 名となる。
昭和 52 年 6 月 7 日	本部車を更新（トヨタマーク II）。
昭和 52 年 9 月 13 日	救助用ボート 2 艇、船外機（9.8 馬力）2 機、救命胴衣 16 着購入。
昭和 52 年 9 月 16 日	化学消防車（三菱 FUSO ディーゼル）購入。養老消防署に配置。
昭和 53 年 1 月 1 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 33 名となる。
昭和 53 年 3 月 31 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 32 名となる。
昭和 53 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名増員、総員 33 名となる。
昭和 53 年 4 月 1 日	消防団ラッパ隊を隊長以下 13 名で編成。団員総数 550 名となる。初代ラッパ長に他田嘉太郎氏就任。
昭和 53 年 9 月 1 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 6 分団第 4 部（栗笠）に配置。
昭和 53 年 9 月 1 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）、第 4 分団第 3 部（三郷）、第 6 分団第 6 部（大野）に配置。
昭和 53 年 9 月 27 日	財団法人日本消防協会より広報車（三菱ギャラン）1 台寄贈。養老消防署に配置。

昭和 54 年 4 月 1 日	上石津町の消防事務を受託。
昭和 54 年 4 月 2 日	消防職員 9 名増員、総員 42 名となる。
昭和 54 年 8 月 30 日	消防車（ニッサン）1 台購入。養老消防署南部分駐所に配置。
昭和 54 年 9 月 30 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 9 分団第 2 部（中）に配置。小型ポンプ 3 台購入。第 1 分団第 4 部（押越）、第 2 分団第 2 部（竜泉寺）、第 5 分団第 3 部（大場）に配置。
昭和 54 年 10 月 1 日	上石津消防署を設置、署員 10 名。消防車（ニッサン）1 台、救急車（トヨタマーク II）1 台、指令車（コロナ）1 台を配置し、消防業務を開始。 延べ面積 377.83 m ²
昭和 55 年 3 月 24 日	社団法人日本損害保険協会より救急車（ニッサンキャラバン）1 台寄贈、上石津消防署に配置。
昭和 55 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 45 名となる。
昭和 55 年 4 月 1 日	二代目消防長に内堀靖郎氏就任。
昭和 55 年 6 月 20 日	工作車（日野）1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 55 年 9 月 20 日	小型ポンプ（トーハツ）5 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、第 1 分団第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（飯ノ木）、第 5 分団第 2 部（釜段）、第 6 分団第 1 部（下笠南）に配置。
昭和 56 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 47 名となる。
昭和 56 年 8 月 28 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 7 分団第 2 部（飯田、大坪、蛇持）に配置。及び小型ポンプ 3 台購入。第 5 分団第 5、6 部（大巻）、第 6 分団第 3 部（上之郷）、第 6 分団第 2 部（下笠北）に配置。
昭和 56 年 9 月 22 日	財団法人日本消防協会より救急車（ニッサンキャラバン）1 台寄贈。養老消防署に配置。救急車（トヨタハイエース）を南部分駐所に配置、救急業務を開始。積載車 1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 56 年 9 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 46 名となる。
昭和 57 年 3 月 31 日	消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 45 名となる。
昭和 57 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名役場より異動、総員 46 名となる。
昭和 57 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 48 名となる。
昭和 57 年 5 月 1 日	消防本部旗を杉野充氏より寄贈。
昭和 57 年 9 月 28 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 2 分団第 2 部（上方、竜泉寺、勢至、石畑、柏尾）に配置。及び小型ポンプ 3 台購入。第 2 分団第 1 部（沢田）、第 7 分団第 2 部（大坪）、第 9 分団第 3 部（室原）に配置。
昭和 58 年 3 月 31 日	二代目消防長内堀靖郎氏役場へ異動、総員 47 名となる。
昭和 58 年 4 月 1 日	三代目消防長に日比哲夫氏が役場より異動、総員 48 名となる。
昭和 58 年 4 月 1 日	栗田 實消防団長退団につき、近藤光雄氏が消防団長に就任。
昭和 58 年 11 月 26 日	小型ポンプ 2 台購入。第 4 分団第 4 部（一色）、第 9 分団第 1 部（橋爪）に配置。

昭和 59 年 2 月 10 日	優良婦人消防隊として日本消防協会長より表彰旗を受ける。
昭和 59 年 3 月 1 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 5 分団第 5, 6 部（大巻）に配置。
昭和 59 年 3 月 25 日	養老ライオンズクラブより、三菱ジープ（パジェロ）の寄贈を受け、指令車として養老消防署に配置。
昭和 59 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 50 名となる。
昭和 59 年 4 月 10 日	消防職員 1 名退職、総員 49 名となる。
昭和 59 年 8 月 13 日	小型ポンプ（トーハツ）1 台購入。第 7 分団第 1 部（江月、祖父江）に配置。
昭和 60 年 3 月 31 日	三代目消防長日比哲夫氏役場へ異動、総員 48 名となる。
昭和 60 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 47 名となる。
昭和 60 年 4 月 1 日	四代目消防長に川地敏和氏役場より異動、総員 48 名となる。
昭和 60 年 5 月 23 日	ライトバン（トヨタマーク II）を購入。消防本部本部車として配置。
昭和 60 年 7 月 1 日	優良婦人消防隊として消防庁長官より消防関係安全功労賞を受ける。
昭和 60 年 7 月 19 日	優良消防本部として日本消防協会長より感謝状を受ける。
昭和 60 年 9 月 24 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 1 部（鶯巣）、第 5 分団第 4 部（瑞穂）に配置。
昭和 60 年 11 月 10 日	消防車（三菱）1 台購入。養老消防署に配置。
昭和 61 年 3 月 31 日	消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 47 名となる。
昭和 61 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 46 名となる。
昭和 61 年 4 月 1 日	消防事務吏員 1 名役場より異動、総員 47 名となる。
昭和 61 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 49 名となる。
昭和 61 年 7 月 1 日	婦人消防隊に火災予防活動及び火災予防思想の普及功績により内閣総理大臣表彰を受ける。
昭和 61 年 9 月 25 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 5 部（烏江）、第 5 分団第 7 部（小坪）、第 6 分団第 5 部（船附）に配置。
昭和 62 年 3 月 31 日	四代目消防長川地敏和氏役場へ異動、総員 48 名となる。
昭和 62 年 4 月 1 日	五代目消防長に田中敏夫氏役場より異動。総員 49 名となる。
昭和 62 年 8 月 24 日	林野火災用軽可搬ポンプ 2 台購入。養老消防署、上石津消防署各 1 台配置。
昭和 62 年 9 月 21 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）に配置。
昭和 62 年 10 月 7 日	第 3 回全国婦人消防操法大会に岐阜県代表として出場（横浜市）。
昭和 63 年 3 月 1 日	日本自動車工業会より救急車（トヨタハイエース 2B 型）寄贈を受ける。
昭和 63 年 4 月 1 日	消防団組織の簡素合理化に伴い団員総数 425 名となる。
昭和 63 年 6 月 3 日	日本防火協会より町婦人消防隊へ防火広報車（ニッサンキャラバン）1 台寄贈を受ける。
昭和 63 年 9 月 16 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 3 部（有尾、横屋、田）、第 6 分団第 6 部（大野）に配置。
昭和 63 年 9 月 23 日	自治体消防発足 40 周年記念行事の一環として消防団、婦人消防隊、少年・幼年消防クラブ計 1,718 名が参加、総合体育館において養老町消防広場を開催する。

昭和 63 年 12 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 48 名となる。
平成 元 年 1 月 8 日	1 月 7 日天皇ご崩御により本町も自粛の意味をもち平成元年消防出初式中止となった。
平成 元 年 3 月 31 日	五代目消防長田中敏夫氏及び消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 46 名となる。
平成 元 年 4 月 1 日	六代目消防長に栗田時夫氏及び消防事務吏員 1 名役場より異動、総員 48 名となる。
平成 元 年 4 月 1 日	消防職員 4 名増員、総員 52 名となる。
平成 元 年 9 月 27 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 8 分団第 1 部（多芸）に配置。
平成 元 年 9 月 27 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 4 部（押越）、第 2 分団第 3 部（養老）、第 5 分団第 3 部（大場）に配置。
平成 元 年 11 月 1 日	第 10 回岐阜県ラッパ競練大会が土岐市において開催され、西濃地区代表として養老郡ラッパ隊が出場し、第 3 位に入賞する。
平成 元 年 12 月 26 日	救助工作車（日野 II 型）を購入。養老消防署に配置。
平成 元 年 12 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 51 名となる。
平成 2 年 2 月 14 日	養老町消防団が日本消防協会より竿頭綬表彰を受ける。
平成 2 年 6 月 1 日	消防職員 1 名役場へ異動、総員 50 名となる。
平成 2 年 9 月 17 日	小型ポンプ 5 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、第 1 分団第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（飯ノ木、大跡）、第 5 分団第 2 部（釜段）、第 6 分団第 1 部（下笠南）に配置。
平成 2 年 12 月 5 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 3 分団第 1 部（口ヶ島）に配置。
平成 3 年 2 月 14 日	財団法人日本消防協会より救急車（ニッサン）寄贈。上石津消防署に配置。
平成 3 年 3 月 31 日	六代目消防長栗田時夫氏異動により町収入役に就任される。総員 49 名となる。
平成 3 年 4 月 1 日	七代目消防長に西脇孝雄氏役場より異動、総員 50 名となる。
平成 3 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 51 名となる。
平成 3 年 8 月 24 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 4 分団第 2 部（小倉）に配置。
平成 3 年 9 月 17 日	怪自動車（ダイハツミラ）を購入。消防本部広報車として配置。
平成 3 年 9 月 30 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 5 分団第 1 部（根古地）、第 6 分団第 2 部（下笠北）、第 6 分団第 3 部（上之郷）に配置。
平成 3 年 12 月 24 日	消防車（三菱）1 台購入。上石津消防署に配置。
平成 4 年 9 月 30 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 2 分団第 1 部（沢田、桜井、五日市）、第 9 分団第 3 部（色目、室原）に配置。
平成 4 年 12 月 18 日	化学消防車（日野 II 型）を購入。養老消防署に配置。
平成 5 年 3 月 31 日	七代目消防長西脇孝雄氏役場へ異動、総員 50 名となる。
平成 5 年 4 月 1 日	八代目消防長に田中三木男氏役場より異動、総員 51 名となる。
平成 5 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 52 名となる。

平成 5 年 4 月 1 日	近藤光雄消防団長退団につき、橋本政寿氏が消防団長に就任。
平成 5 年 11 月 7 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 4 部（一色、船見、若宮）、第 9 分団第 1 部（橋爪、中）に配置。
平成 5 年 11 月 30 日	消防車（三菱）1 台購入。養老消防署南部分駐所に配置。
平成 5 年 12 月 20 日	消防車（ニッサン）1 台購入。第 6 分団第 4 部（栗笠）に配置。
平成 6 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 53 名となる。
平成 6 年 11 月 13 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 7 分団第 1 部（江月、祖父江）、第 8 分団第 2 部（直江、金屋、飯積）に配置。
平成 6 年 12 月 18 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 9 分団第 2 部（豊、宇田、安久）に配置。
平成 7 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 52 名となる。
平成 7 年 3 月 31 日	八代目消防長田中三木男氏及び消防事務吏員 1 名役場へ異動、総員 50 名となる。
平成 7 年 4 月 1 日	九代目消防長に松葉巖氏役場より異動、総員 51 名となる。
平成 7 年 4 月 1 日	消防職員 4 名増員、総員 55 名となる。
平成 7 年 4 月 1 日	橋本政寿消防団長退団につき、日比野豊氏が消防団長に就任。
平成 7 年 5 月 21 日	ワゴン（トヨタマーク II）を購入。消防本部本部車として配置。
平成 7 年 9 月 22 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 1 部（鷺巣）、第 5 分団第 4 部（瑞穂）に配置。
平成 7 年 11 月 30 日	高規格救急車（トヨタ）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 8 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 54 名となる。
平成 8 年 4 月 1 日	養老町婦人消防隊を養老町女性防火クラブ連絡協議会に改称。
平成 8 年 9 月 9 日	日本損害保険協会より水槽付消防車（日野）の寄贈を受けタンク車として、養老消防署に配置。
平成 8 年 12 月 17 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 7 分団第 2 部（飯田、大坪、蛇持）に配置。
平成 8 年 12 月 17 日	小型ポンプ（シバウラ）3 台購入。第 1 分団第 5 部（鳥江）、第 5 分団第 6 部（高柳、小坪）、第 6 分団第 5 部（船附）に配置。
平成 9 年 3 月 31 日	九代目消防長松葉巖氏役場へ異動、総員 53 名となる。
平成 9 年 4 月 1 日	十代目消防長渋谷満氏役場より異動、総員 54 名となる。
平成 9 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 57 名となる。
平成 9 年 10 月 6 日	救急車（トヨタ）1 台購入。養老消防署南部分駐所に配置。
平成 9 年 11 月 25 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 2 分団第 2 部（上方、竜泉寺、喜勢、石畑、柏尾）に配置。
平成 10 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 56 名となる。
平成 10 年 10 月 22 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 3 部（三郷）、第 6 分団第 6 部（大野）に配置。
平成 10 年 10 月 29 日	消防車（トヨタ）1 台購入。第 5 分団第 5 部（大巻内、仁保、美波）に配置。

平成 11 年 1 月 8 日	日比野豊消防団長退団につき、横山貞光氏が消防団長に就任。
平成 11 年 3 月 31 日	十代目消防長渋谷 満氏役場へ異動、総員 55 名となる。
平成 11 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 54 名となる。
平成 11 年 4 月 1 日	消防職員より初の十一代目消防長七里正昭氏となる。
平成 11 年 9 月 8 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 4 部（押越）、第 2 分団第 3 部（白石）、第 5 分団第 3 部（大場）に配置。
平成 12 年 1 月 8 日	消防団機構改革により、定員 400 名となる。特別団員制度に改正。
平成 12 年 1 月 31 日	消防車（三菱）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 12 年 3 月 30 日	消防指令車（三菱）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 12 年 3 月 31 日	消防職員 2 名退職、総員 52 名となる。
平成 12 年 4 月 1 日	消防職員 4 名増員、総員 56 名となる。
平成 12 年 6 月 18 日	小型ポンプ（トーハツ）5 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、第 1 分団第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（飯ノ木、大跡）、第 5 分団第 2 部（釜段）、第 6 分団第 1 部（下笠南）に配置。
平成 12 年 7 月 30 日	第 49 回岐阜県消防操法大会を開催（養老町スマイルグラウンド）。
平成 12 年 8 月 10 日	消防職員 1 名退職、総員 55 名となる。
平成 12 年 9 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 54 名となる。
平成 12 年 11 月 23 日	消防職員 1 名退職、総員 53 名となる。
平成 13 年 1 月 1 日	養老郡消防協会事務局が消防本部内へ移管。
平成 13 年 3 月 8 日	消防庁長官より表彰旗表彰。
平成 13 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 52 名となる。
平成 13 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 55 名となる。
平成 13 年 7 月 23 日	高規格救急車（トヨタ）1 台購入。上石津消防署に配置。
平成 13 年 11 月 25 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 5 分団第 1 部（根古地）、第 6 分団第 2 部（下笠）、第 6 分団第 3 部（上之郷）に配置。 消防車（三菱）1 台購入。第 1 分団第 1 部（高田）に配置。
平成 14 年 3 月 26 日	養老消防署指令室仮眠室等増改築。鉄骨造 2 階建、建築面積 447.23 m ² 。 消防緊急通信指令施設 I 型設置。
平成 14 年 3 月 31 日	十一代目消防長七里正昭氏退職、総員 54 名となる。 消防職員 1 名退職、総員 53 名となる。
平成 14 年 4 月 1 日	十二代目消防長西脇正博氏役場より異動、総員 54 名となる。 消防職員 2 名増員、総員 56 名となる。 南部分駐所を南部分署に昇格。
平成 14 年 11 月 9 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 2 分団第 1 部（沢田）、第 9 分団第 3 部（室原）に配置。
平成 14 年 11 月 11 日	国土交通省中部整備局長表彰受賞。
平成 15 年 3 月 31 日	消防職員 3 名退職、総員 53 名となる。

平成 15 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 56 名となる。
平成 15 年 5 月 1 日	全消防職員に新活動服を貸与。
平成 15 年 10 月 12 日	消防車（いすゞ）1 台購入。第 8 分団第 1 部（泉町、三神町、滝見町）に配置。 小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 4 部（一色、船見、若宮）、第 9 分団第 1 部（橋爪、中）に配置。
平成 15 年 12 月 12 日	救助工作車（名古屋三菱ふそう）購入。養老消防署に配置。
平成 16 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 58 名となる。
平成 16 年 6 月 7 日	全消防職員に新防火衣セットを貸与。
平成 16 年 10 月 24 日	「消防感謝祭」防火のつどいを開催。
平成 16 年 11 月 1 日	養老消防署南部分署新築移転竣工式を行う。
平成 16 年 12 月 18 日	消防車（日野）1 台購入。第 3 分団第 1 部（ロヶ島、西岩道、岩道）に配置。 小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 7 分団第 1 部（江月、祖父江）、第 8 分団第 2 部（直江、金屋、飯積）に配置。
平成 17 年 1 月 9 日	全消防団員に法被を貸与。消防団幹部に新防火衣セットを貸与。機動車の部に新防火衣セット 5 式を貸与。女性防火クラブ連絡協議会全会員に新制服を貸与。
平成 17 年 4 月 14 日	県消防長会総会を開催。
平成 17 年 6 月 20 日	トヨタアイシスを購入。本部車として養老消防署に配置。
平成 17 年 9 月 27 日	高規格救急車（トヨタ）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 17 年 10 月 16 日	小型ポンプ（トーハツ）2 台購入。第 4 分団第 1 部（鷺巣）、第 5 分団第 4 部（瑞穂）に配置。
平成 18 年 3 月 27 日	上石津町が大垣市と合併。大垣市より事務委託を受ける。 上石津消防署を上石津分署に降格。
平成 18 年 3 月 31 日	十二代消防長西脇正博氏役場へ異動、総員 57 名となる。
平成 18 年 4 月 1 日	十三代消防長伊藤信彦氏役場より異動、総員 58 名となる。
平成 18 年 10 月 15 日	消防車（いすゞ）1 台購入。第 4 分団第 2 部（小倉・西小倉）に配置。
平成 19 年 2 月 28 日	消防職員 1 名退職、総員 57 名となる。
平成 19 年 3 月 4 日	団本部及び各分団（9 分団）に投光器セット（発電機付）を各台配置。
平成 19 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 56 名となる。
平成 19 年 10 月 14 日	小型ポンプ（シバウラ）3 台購入。第 1 分団第 5 部（烏江）、第 5 分団第 6 部（高柳・小坪）、第 6 分団第 5 部（船附）に配置。
平成 19 年 12 月 13 日	化学消防ポンプ自動車Ⅱ型（日野）購入。養老消防署に配置。
平成 20 年 1 月 8 日	横山貞光消防団長退団につき、細川重正氏が消防団長に就任。
平成 20 年 1 月 17 日	団本部に投光器セット（発電機付・4 灯式）を配置。
平成 20 年 3 月 31 日	消防職員 2 名退職、総員 54 名となる。
平成 20 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 57 名となる。
平成 20 年 9 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 56 名となる。

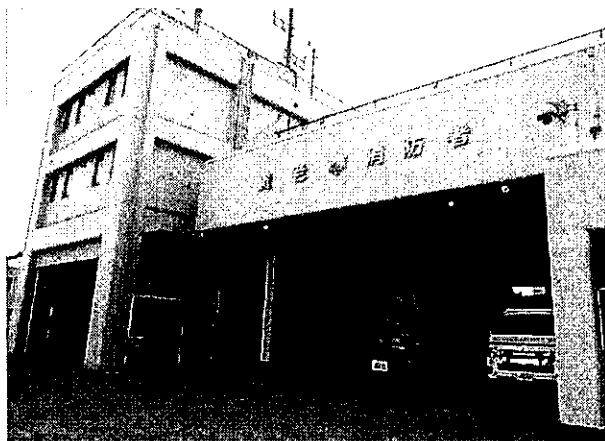
平成 20 年 10 月 19 日	消防車（日野） 1 台購入。第 6 分団第 4 部（栗笠）に配置。
平成 21 年 2 月 17 日	消防車（日野） 1 台納入。上石津分署に配置。
平成 21 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 5 5 名となる。
平成 21 年 4 月 1 日	消防職員 1 名増員、総員 5 6 名となる。
平成 21 年 6 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 5 5 名となる。
平成 21 年 7 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 5 4 名となる。
平成 21 年 9 月 1 日	消防職員 1 名退職、総員 5 3 名となる。
平成 21 年 9 月 30 日	消防職員 1 名退職、総員 5 2 名となる。
平成 22 年 3 月 19 日	消防車（日野） 1 台購入。南部分署に配置。
	高規格救急車（トヨタ） 1 台購入。南部分署に配置。
平成 22 年 3 月 31 日	十三代消防長伊藤信彦氏役場へ異動、総員 5 1 名となる。
平成 22 年 4 月 1 日	十四代消防長佐竹鍾男氏役場より異動、総員 5 2 名となる。
	消防職員 2 名増員、総員 5 4 名となる。
平成 23 年 4 月 1 日	消防職員 3 名増員、総員 5 7 名となる。
平成 23 年 9 月 30 日	十四代消防長佐竹鍾男氏役場へ異動、総員 5 6 名となる。
平成 23 年 10 月 1 日	内部昇格により、十五代消防長小林恒夫氏就任する。
平成 23 年 11 月 9 日	高規格救急車（トヨタ） 1 台納入。上石津分署に配置。
平成 24 年 1 月 8 日	細川重正消防団長退団につき、岡本盛氏が消防団長に就任。
平成 24 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 5 5 名となる。
平成 24 年 4 月 1 日	消防職員 2 名増員、総員 5 7 名となる。
平成 24 年 10 月 14 日	消防車（日野） 1 台購入。第 9 分団第 2 部（豊・宇田・安久）に配置。
平成 25 年 1 月 8 日	岡本盛消防団長退団につき、伊藤勝則氏が消防団長に就任。
平成 25 年 3 月 31 日	十五代消防長小林恒夫氏退職、総員 5 6 名となる。
平成 25 年 4 月 1 日	十六代消防長堀田明男氏就任する。
	消防職員 2 名増員、総員 5 8 名となる。
平成 25 年 7 月 14 日	小型ポンプ（トーハツ） 2 台購入。第 4 分団第 3 部（有尾・田・横屋）、第 6 分団第 6 部（大野）に配置。
平成 26 年 3 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 5 7 名となる。
平成 26 年 7 月 5 日	小型ポンプ（トーハツ） 3 台購入。第 1 分団第 4 部（押越）、第 2 分団第 3 部（白石）、第 5 分団第 3 部（大場）に配置。
平成 26 年 10 月 8 日	消防車（日野） 1 台購入。第 7 分団第 2 部（飯田）に配置。
平成 27 年 2 月 10 日	養老消防署指令棟増築。鉄筋造 3 階建、建築面積 117.05 m ² 。
平成 27 年 3 月 10 日	養老消防署指令棟において運用開始式を行う。
平成 27 年 3 月 27 日	高機能消防指令センター設置。
平成 27 年 3 月 31 日	消防職員 2 名退職、総員 5 5 名となる。
平成 27 年 4 月 1 日	消防職員 4 名増員うち 1 名は再任用、総員 5 9 名となる。

平成 27 年 11 月 15 日	消防車（日野）1 台購入。第 2 分団第 2 部（上方・竜泉寺・喜勢・石畑）に配置。
平成 28 年 2 月 26 日	総務省消防庁より消防団多機能車貸与。
平成 28 年 3 月 23 日	養老消防署指令棟において消防救急デジタル無線及び消防団多機能車運用開始式を行う。
平成 28 年 3 月 31 日	十六代消防長堀田明男氏他 5 名退職、総員 54 名となる。
平成 28 年 4 月 1 日	十七代消防長川添公男氏就任する。 消防職員 6 名増員うち 2 名再任用（事務職員 1 名）、総員 60 名となる。
平成 28 年 9 月 30 日	消防車（日野）1 台購入、5 分団第 5 部（大巻の内、仁保、美波、上、寺町、堤）に配置。
平成 28 年 11 月 18 日	高規格救急車（トヨタ）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 28 年 12 月 8 日	日本消防協会より消防指令車（スバル）寄贈、養老消防署に配置。
平成 29 年 3 月 31 日	十七代消防長川添公男氏他 1 名退職。総員 58 名となる。
平成 29 年 4 月 1 日	消防職員 2 名役場へ異動。総員 56 名となる。 十八代消防長野村博治氏、及び次長、役場より異動。総員 58 名となる。 消防職員 2 名増員、総員 60 名（事務職員 1 名）となる。
平成 29 年 10 月 8 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 3 部（下高田）、第 3 分団第 2 部（口ケ島、西岩道、岩道）、第 6 分団第 1 部（下笠の内、三ツ屋、懐、溝）に配置。
平成 30 年 1 月 26 日	水槽付ポンプ自動車（日野）1 台購入。養老消防署に配置。
平成 30 年 2 月 28 日	消防職員 1 名退職、総員 59 名となる。
平成 30 年 3 月 31 日	消防職員 2 名再任用（事務職員 1 名）退職、総員 57 名となる。 消防職員 2 名役場へ異動、総員 55 名となる。
平成 30 年 4 月 1 日	消防職員 1 名役場より異動、総員 56 名となる。 消防職員 5 名増員、総員 61 名となる。
平成 30 年 5 月 31 日	消防職員 1 名退職、総員 60 名となる。
平成 30 年 6 月 11 日	養老消防署耐震補強及び災害時救助活動拠点整備工事実施。
平成 30 年 9 月 30 日	十八代消防長野村博治氏役場へ異動、総員 59 名となる。
平成 30 年 10 月 1 日	十九代消防長三和隆夫氏就任する。
平成 30 年 10 月 7 日	小型ポンプ（トーハツ）3 台購入。第 1 分団第 2 部（島田）、第 5 分団第 1 部（根古地）、第 6 分団第 2 部（下笠の内、西江下、東江下、中村、和田、中島、野崎）に配置。
平成 31 年 3 月 15 日	養老消防署耐震補強及び災害時救助活動拠点整備工事完了。
平成 31 年 3 月 31 日	消防職員 2 名退職、総員 57 名となる。
平成 31 年 4 月 1 日	消防職員 5 名増員、総員 62 名となる。

消防情勢

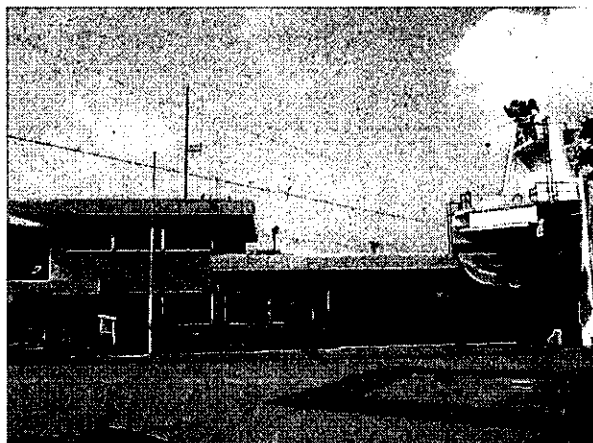
養 老 町 消 防 本 部

養老消防署庁舎

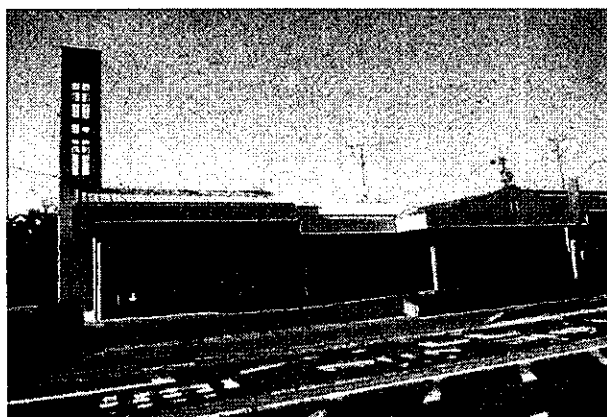


養 老 消 防 署

上石津分署庁舎



養 老 消 防 署
南部分署庁舎



養老町・大垣市上石津町 勢

概 況

位 置	東経 北緯 海拔	(養老町)	(大垣市上石津町)	(計)
		1 3 6 度 3 4 分 3 5 度 1 8 分 9 . 8 m	1 3 6 度 2 8 分 3 5 度 1 7 分 1 1 8 . 7 m	
	総面積	7 2 . 2 9 km ²	1 2 3 . 3 8 km ²	1 9 5 . 6 7 km ²
人 口 (H31. 4. 1)	総人口	2 8 , 9 2 4 人	5 , 4 4 8 人	3 4 , 3 7 2 人
世 帯 数	総世帯数	1 0 , 3 9 9 世帯	1 , 9 9 3 世帯	1 2 , 3 9 2 世帯
消防常備部発足年月日		昭和 3 8 年 1 月 1 日		
消防常備部南部分駐所発足年月日		昭和 4 1 年 1 1 月 1 日		
消防本部、署発足年月日		昭和 4 4 年 4 月 4 日		
上石津署発足年月日		昭和 5 4 年 1 0 月 1 日		
南部分署設置年月日		平成 1 4 年 4 月 1 日		
上石津分署設置年月日		平成 1 8 年 3 月 2 7 日		

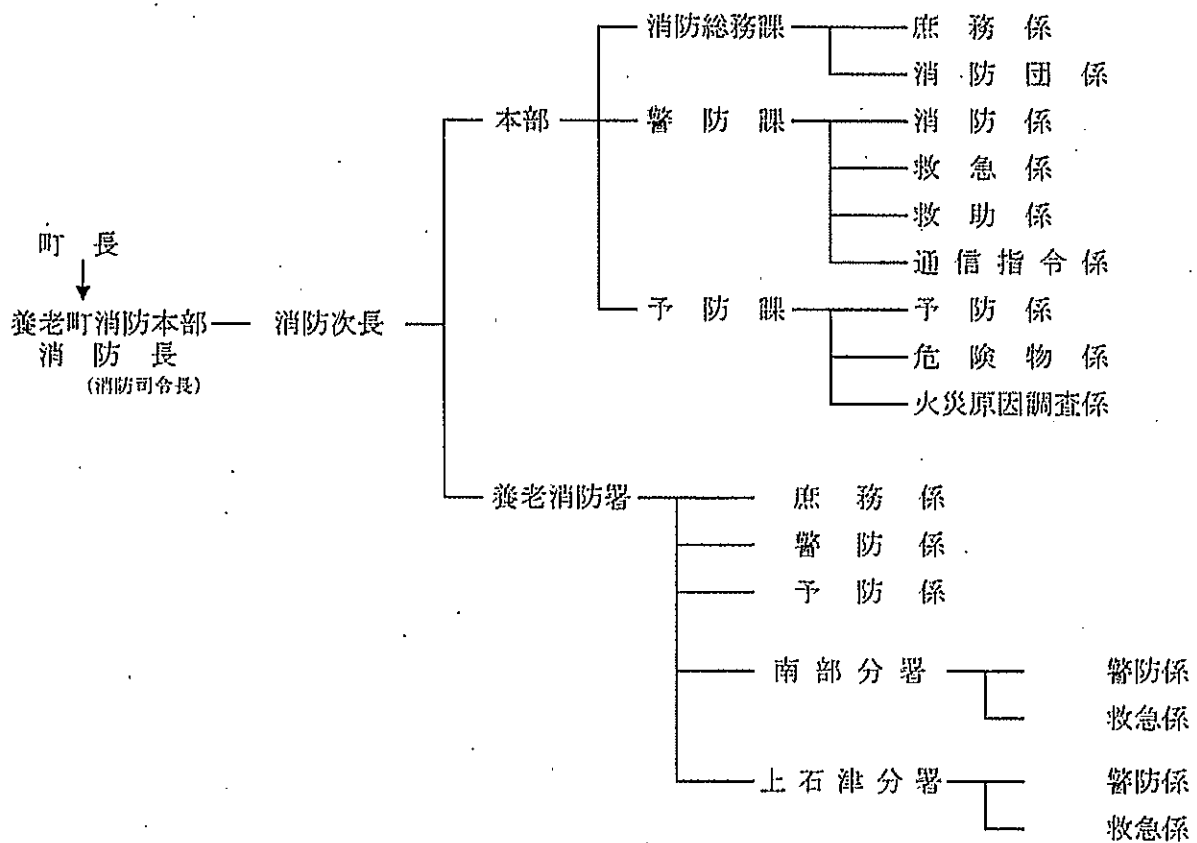
消 防 予 算

費目	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	平成 3 1 年度 (2 0 1 9 年度)
	金額 (千円)	金額 (千円)	金額 (千円)
常備消防費	553,640	589,092	512,394
非常備消防費	63,539	64,841	65,596

消防予算と町予算の累年比較

町・年度別		区分	町の一般会計歳出 予算額 (当初) (千円)	消防費 (当初) (千円)	予算額に対する 比 率 (%)
養老町	平成 3 0 年度		10,476,000	697,324	6.7
	平成 3 1 年度 (2 0 1 9 年度)		12,908,000	695,987	5.4

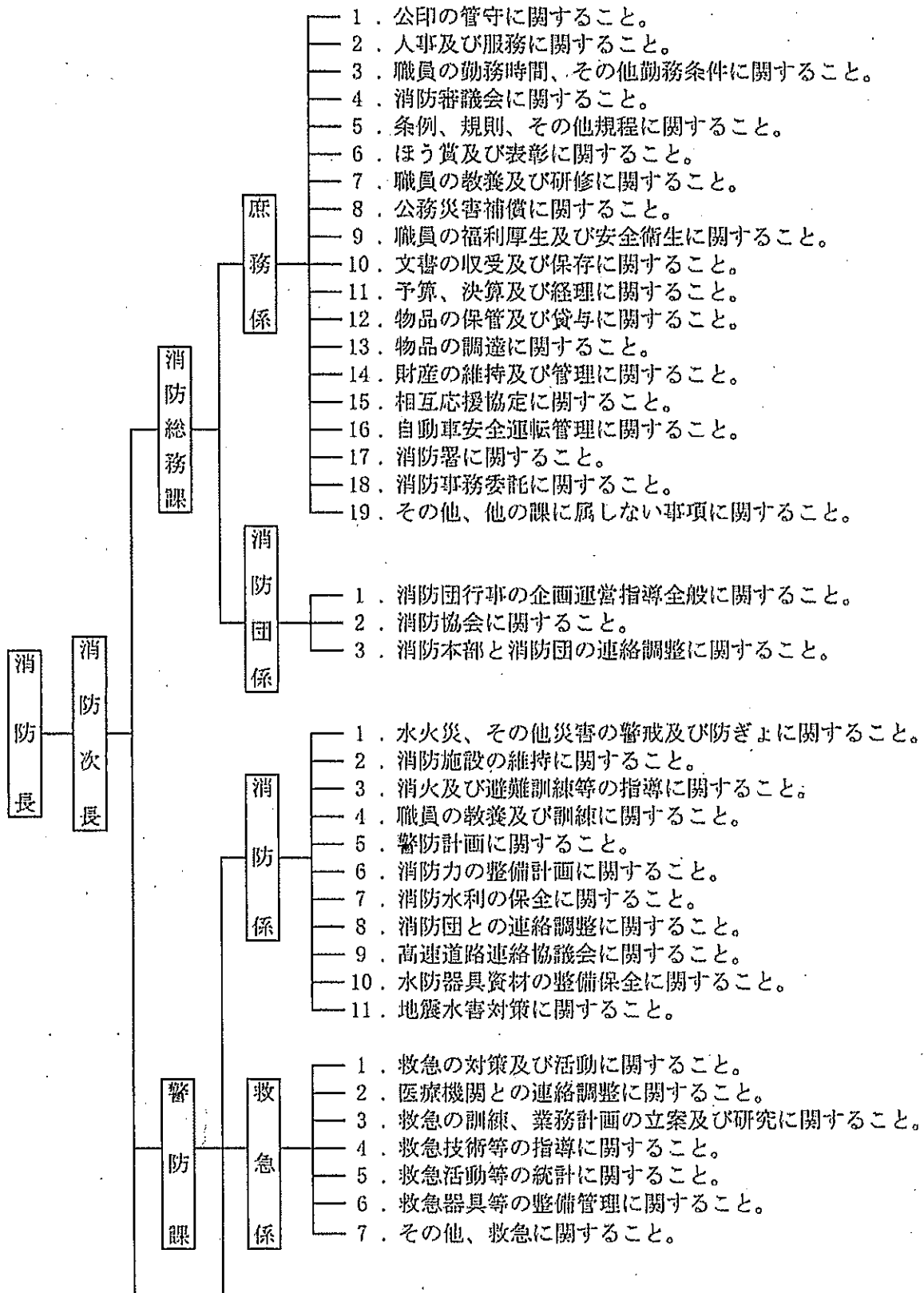
消 防 組 織 (機 構)

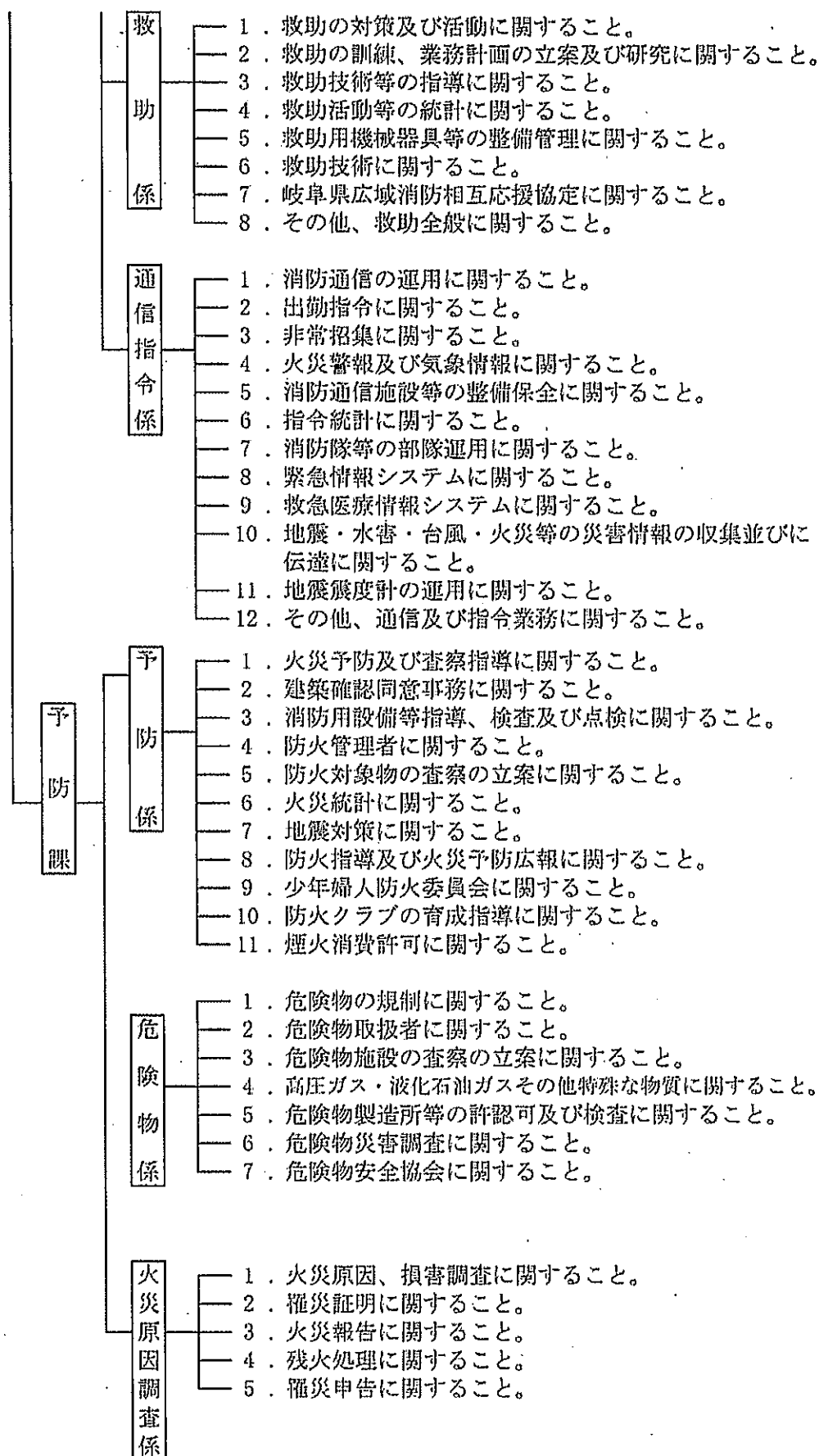


人口等に対する消防力の比較

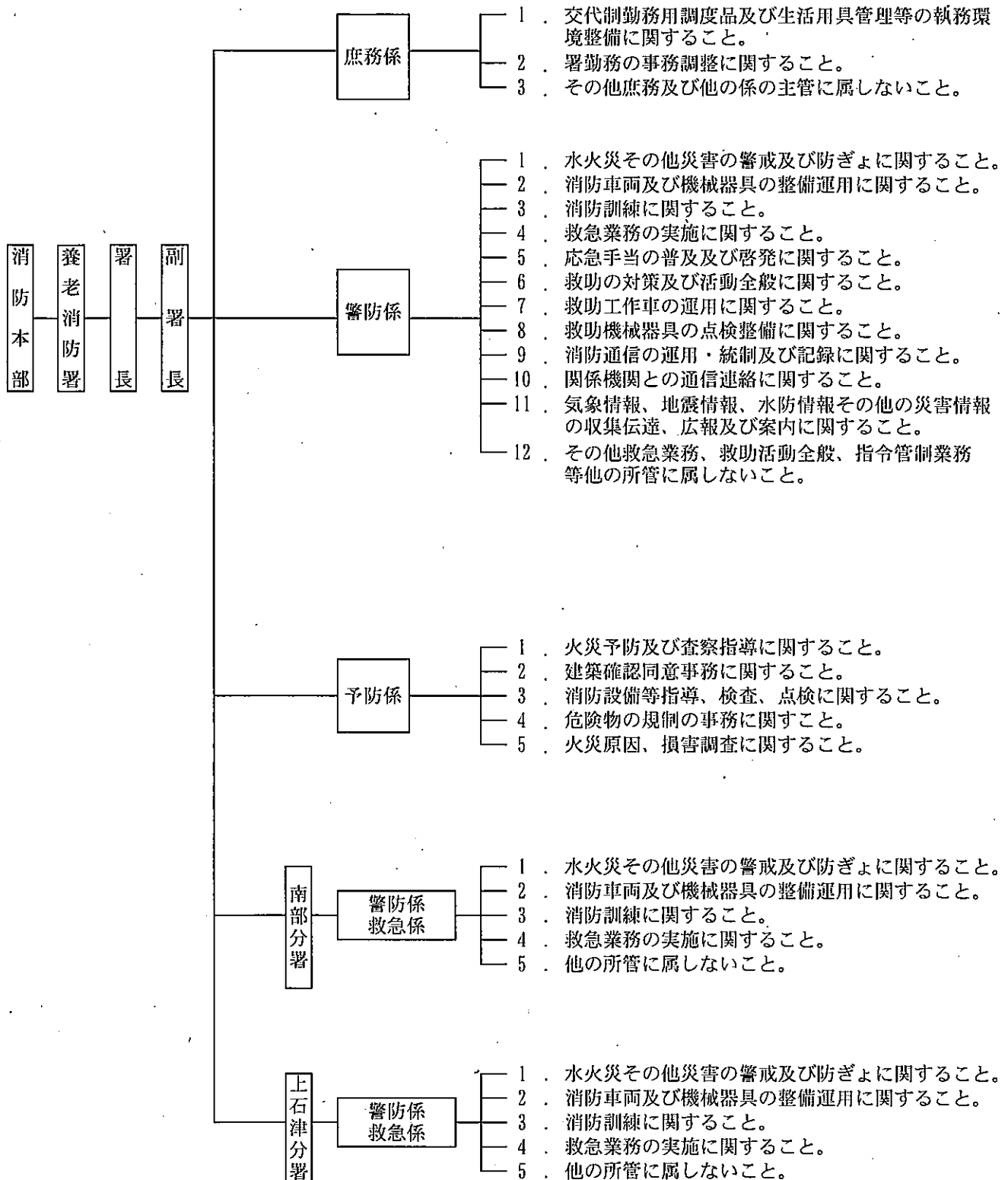
消防吏員 1 人に対する (62人)			ポンプ車 1 台に対する (9台)		
面積	人口	世帯数	面積	人口	世帯数
3.15km ²	554.3人	199.8戸	21.7km ²	3,869.7人	1,370.6戸
消防団員 1 人に対する (399人)			小型ポンプ 1 台に対する (25台)		
面積	人口	世帯数	面積	人口	世帯数
0.49km ²	86.1人	31.0戸	7.82km ²	1,393.1人	493.4戸

消防本部、消防署 事務分掌表





署 事 務 分 掌 表



消防力の整備指針と現有消防力との比較

養老町 28,924 人		大垣市上石津町 5,448 人		計 (H31. 4. 1 現在人口) 34,372 人	
基準消防力		基準	現有	過不足	備考
署所の数		3	3		
消防ポンプ自動車		4	4		
はしご車		1		-1	
化学消防車		1	1		
救助工作車		1	1		
救急車		3	3		
特殊車等		7	7		
指揮車		1	2	1	
警防要員	消防ポンプ自動車 4 台 搭乗人員数×2部制×台数×人員 措置係数 はしご車・工作車・化学車・特殊車 救急車 73 名	91人	司令長 1人 司令 11人 司令補 18人 士長 6人 副士長 7人 消防士	-49人	
	司令長等 18 名				
	予防要員		11人		
	救助のための要員				
	通信員		2人		
庶務の処理等の人員		7人			
合計		111人	62人	-49人	

算出基準
人口12/100,000×
補正係数

消防職員年令調

H31.4.1

階級 実員 年令	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	計
	1	11	18	6	7	19	62
18 才						3	3
19 //							
20 //						1	1
21 //							
22 //						2	2
23 //						5	5
24 //						4	4
25 //						1	1
26 //						1	1
27 //						1	1
28 //						1	1
29 //					4		4
30 //					3		3
31 //				1			1
32 //							
33 //							
34 //				1			1
35 //							
36 //				3			3
37 //							
38 //			2				2
39 //			2				2
40 //			1	1			2
41 //			2				2
42 //			2				2
43 //			1				1
44 //			1				1
45 //			1				1
46 //			3				3
47 //							
48 //			1				1
49 //							
50 //							
51 //		2					2
52 //			2				2
53 //		2					2
54 //							
55 //		1					1
56 //		2					2
57 //		3					3
58 //							
59 //	1	1					2
60 //							
61 //							
平均年齢	59.0	55.0	43.4	35.5	29.4	22.9	37.0

特殊技術資格所有者調

H31.4.1

階級		消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
自動車運転免許	大 型	1	10	18	5	3	1	38
	中 型				1	7	5	13
	準中型							
	普 通	1	11	18	6	7	19	62
自 動 二 輪			8	7	1	1	1	18
特殊無線技士 (乙)		1	11	18	6	7	14	57
危 険 物 取 扱 者		1	7	14	6	7	12	47
消防設備士 (乙種)			3					3
アマチュア無線			3	1				4
潜 水 士 免 許 証		1	5	9	5	4	6	30
小型船舶操縦士 (2級)			5	4	0	2	1	12
移動式クレーン技能者		1	11	18	6	7	8	51
ガ ス 溶 接 免 許		1	1					2
第2種酸素欠乏危険作業主任者		1						1
玉 掛 技 能 者		1	11	18	6	7	8	51
救 急 救 命 士			4	10	2	1		17

消防職員教養状況調

H31.4.1

階級		消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計
初 任 教 育		1	11	18	6	7	14	57
消 防 学 校	警 防 科	救 助 課 程 (救助科含む)	1	8	9	2	1	21
		無線通信課程	1	11	18	6	7	57
		警 防 課 程		6	9			15
		予 防 課 程	1	7	3			11
	予 防 科	危険物課程 (危険物科含む)	1	4	2		1	8
		査 察 課 程	1	6	1	1		9
		火災調査課程	1	3	10	2		16
		機 関 科		3				3
	機 関 科	水難救助課程		2	4			6
		救急標準課程			11	6	7	38
		救急II課程	1	11	7			19
	初 級 幹 部 科			3	4			7
	中 級 幹 部 科		1	5				6
	上 級 幹 部 科			3				3
消防大学校		警 防 科			1			1
		予 防 科		1				1

H31.4.1

階級 年数	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士	消防 副士長	消防 士長	計	階級 年数	消防 司令長	消防 司	消防 令	消防 司令補	消防 士	消防 副士長	消防 士長	計
	実員	1	11	18	6	7			19	62	22			3		
1年未満							5	5	23			1				1
1年							5	5	24			3				3
2							1	1	25							
3							3	3	26							
4							3	3	27							
5									28			1				1
6						2		2	29							
7						1		1	30		1	3				4
8						2	1	3	31							
9					1		1	2	32							
10									33		2					2
11						2		2	34							
12									35		1					1
13									36							
14									37		2					2
15				2				2	38		2					2
16					2			2	39		3					3
17				1				1	40	1						1
18				1	2			3	41							
19				3	1			4	42							
20									43							
21									44							

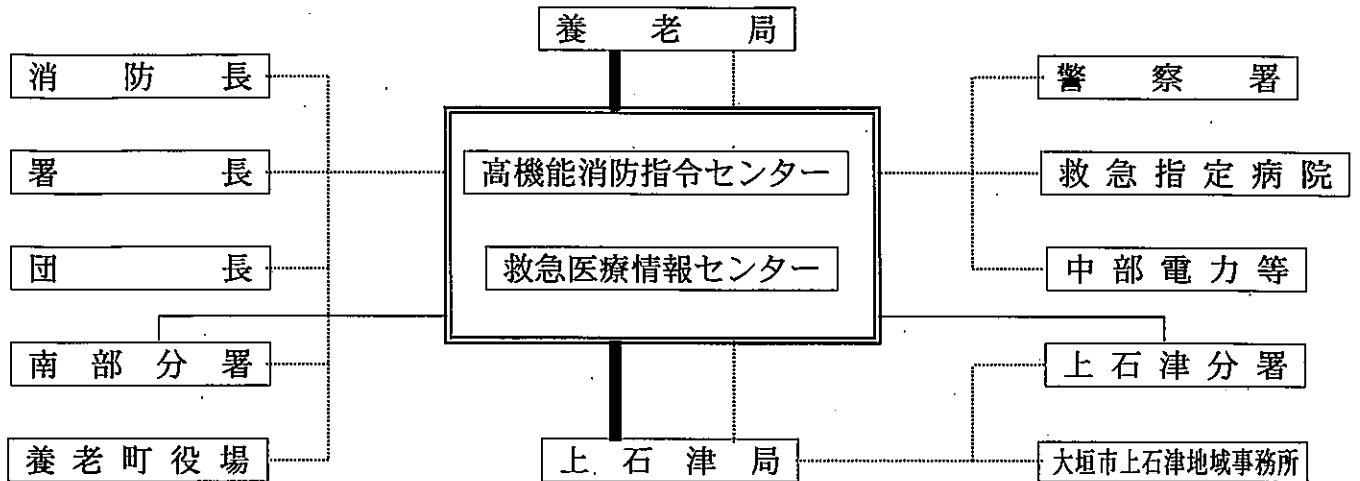
消防本部(署)消防ポンプ等配備表

区分 所属		種別	車名	登録年	ポンプ			備考
					名称	型式	規格	
消防本部	消防署	消防ポンプ自動車	ミツビシ	H12	モリタ	2段式バレンスタービン	A2	無線機付
		〃	ヒノ	H21	〃	〃	〃	無線機付
		〃	〃	H22	〃	〃	〃	無線機付
		5t水槽付消防ポンプ自動車	〃	H30	長野	〃	〃	無線機付水5000L
		化学消防ポンプ自動車	〃	H19	〃	〃	〃	無線機付水1,500L薬剤500L
		高規格救急自動車	トヨタ	H28	—	—	—	無線機付
		〃	〃	H23	—	—	—	〃
		〃	〃	H22	—	—	—	〃
		〃（予備車）	〃	H17	—	—	—	〃
		指令車	スバル	H28	—	—	—	〃
		〃	トヨタ	H16	—	—	—	〃
		本部車	トヨタ	H17	—	—	—	〃
		広報車	ダイハツ	H16	—	—	—	〃
		〃	トヨタ	H18	—	—	—	〃
資機材運搬車	トヨタ	H13	—	—	—	〃		
〃	〃	H17	—	—	—	〃		
		救助工作車	ミツビシ	H15	三友ふそう	—	無線機・クレーン・照明灯・ウインナー付	

救助隊保有救助器具表

品名	数量	品名	数量	品名	数量
き 付 き は し こ	1	鉄 線 カ ッ ク 名	1	防 塵 メ ガ ネ	5
三 連 梯 子	1	空 気 鋸	1	化学防護服 (陽圧式除く)	9
ワ イ ヤ ー 梯 子	1	大 型 油 圧 切 断 機	1	潜 水 器 具	5
空 気 式 救 助 マ ッ ト	1	空 気 切 断 機	1	救 命 胴 衣	5
救 命 索 発 射 銃	1	万 能 斧	3	救 命 浮 環	1
救 助 用 縛 帯	3	ハ ン マ ー	2	救 命 ボ ー ト	1
油 圧 ジ ャ ッ キ	2	携 帯 用 コ ン ク リ ー ト 破 壊 器 具	1	船 外 機	1
油 圧 ス プ レ ッ ダ ー	1	ハ ン マ ー ド リ ル	1	水 中 ス ク ー タ ー	1
可 燃 ウ ィ ン チ	1	可 燃 性 ガ ス 測 定 器	2	登 山 器 具	1
マ ン ホ ー ル 救 助 器 具	1	有 毒 ガ ス 測 定 器	2	バ ス ケ ッ ト 型 担 架	1
マ ッ ト 型 空 気 ジ ャ ッ キ	1	酸 素 濃 度 測 定 器	3	携 帯 投 光 器	3
大 型 油 圧 ス プ レ ッ ダ ー	1	空 気 呼 吸 器	4	携 帯 拡 声 器	2
救 助 用 支 柱 器 具	1	空 気 補 充 用 ボ ン ベ	10	携 帯 無 線 機	2
油 圧 切 断 機	1	防 塵 マ ス ク	5	応 急 処 置 用 セ ッ ト	1
エ ン ジ ン カ ッ タ ー	1	送 排 風 機	1	車 両 移 動 器 具	1
ガ ス 溶 断 器	1	耐 電 手 袋	3	発 電 機	1
チ ュ ー ン ソ ー	1	耐 電 長 靴	3		

指令系統図



無線局一覧表

陸上移動局	
ようろう 1	ようろう 61
ようろう 2	ようろう 62
ようろう 3	ようろう 73
ようろう 4	きゅうきゅうようろう 1
ようろう 41	きゅうきゅうようろう 2
ようろう 51	きゅうきゅうようろう 3

陸上移動局
かみいしづ 1
かみいしづ 51
かみいしづ 73
きゅうきゅうかみいしづ 1

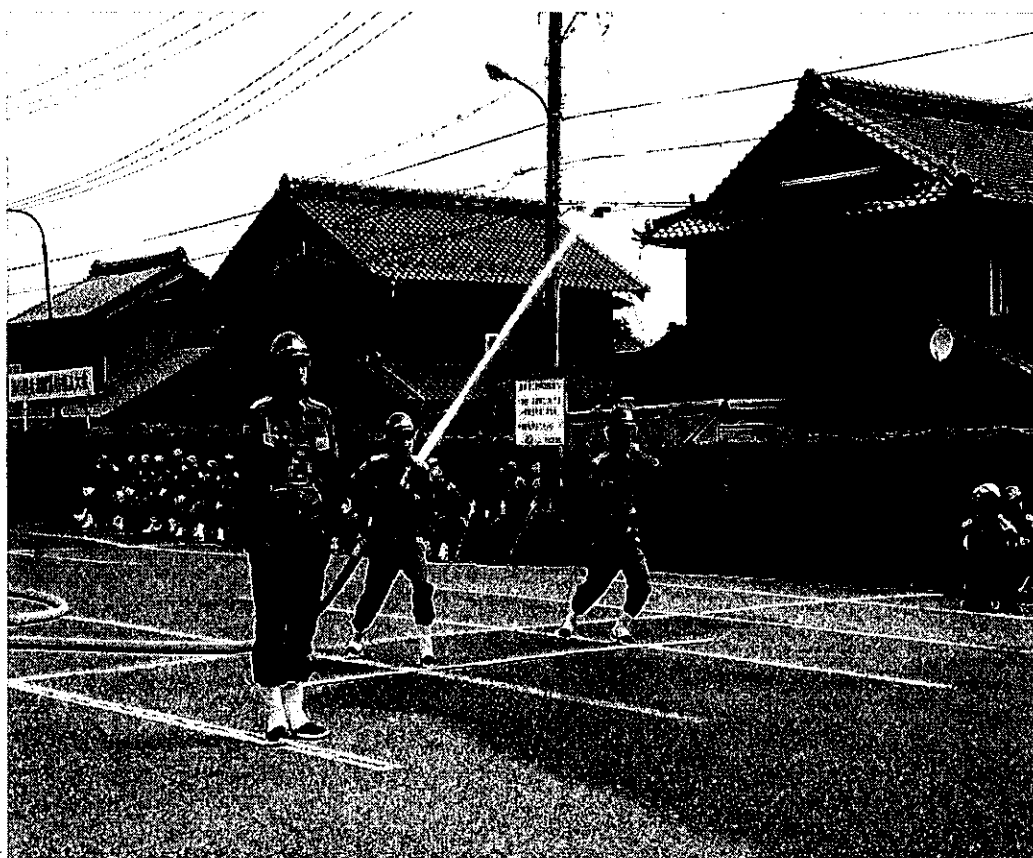
防災相互波
ぼうたいようろう 101
ぼうたいようろう 102
ぼうたいようろう 103
ぼうたいようろう 104
ぼうたいようろう 105
ぼうたいようろう 106
ぼうたいようろう 107

陸上移動局	
ようろう 71	ようろう 108
ようろう 72	ようろう 109
ようろう 101	ようろう 110
ようろう 102	ようろう 111
ようろう 103	ようろう 112
ようろう 104	ようろう 113
ようろう 105	ようろう 114
ようろう 106	ようろう 115
ようろう 107	ようろう 116

陸上移動局
かみいしづ 71
かみいしづ 101
かみいしづ 102
かみいしづ 103

凡 例	
————	火災報知専用電話
.....	加入電話
———	指令電送

消 防 団



消 防 団

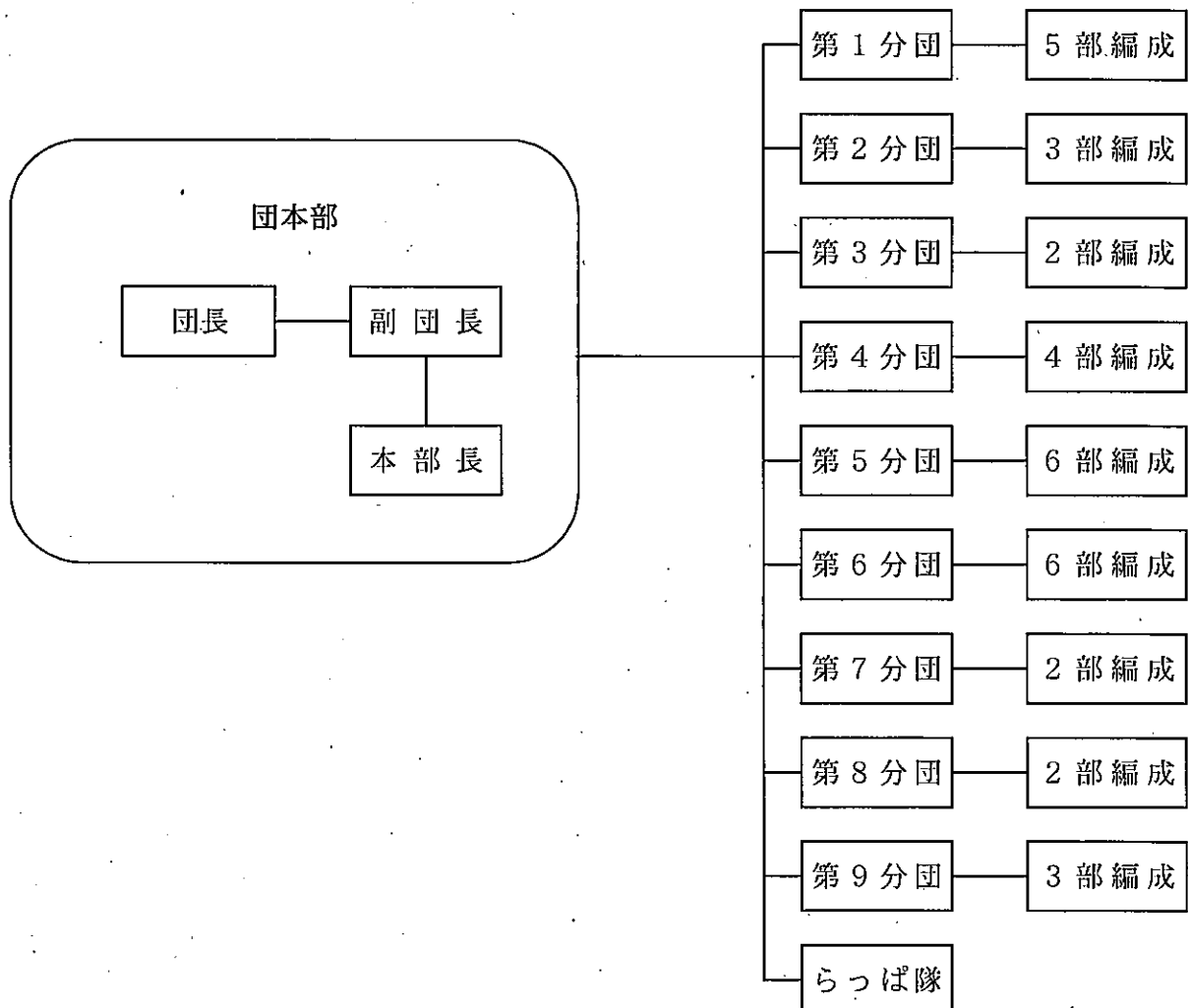
主として火災の警戒及び鎮圧、その他災害の防除及び被害の軽減等の消防活動に従事する市町村の公的機関である消防団は、養老町では9箇分団33部が編成され、団員数399人で、消防団長を中心に日夜活躍しています。(H31.4.1現在)

養老町消防団



伊藤勝則	副 団 長	大 橋 鬼 好	本 部 長	新 和 樹
消防団長	"	大 橋 勝 文	"	中 村 雅
第1分団	第1分団	中 野 威	第6分団	大 橋 力
第2分団	第2分団	中 野 博	第7分団	大 橋 康
第3分団	第3分団	中 野 正	第8分団	大 橋 誠
第4分団	第4分団	中 野 則	第9分団	大 橋 忍
第5分団	第5分団	中 野 知 秀	ら っ ぱ	大 橋 美智雄

消 防 団 機 構



養 老 町 消 防 団 表 彰 歴

年 次	表 彰 事 項
昭和 33 年 3 月 18 日	第 1 回南濃消防操法大会に総合優勝
昭和 34 年 11 月 10 日 昭和 34 年 12 月 1 日 昭和 34 年 12 月 9 日	昭和 34 年 8 月 12 日の集中豪雨水害功労 伊勢湾台風水害救助功労 台風 15 号の風水害の災害救助功労
昭和 35 年 3 月 8 日 昭和 35 年 12 月 1 日	昭和 34 年 8 月及び 9 月の風水害公務遂行功労 金馬れん表彰
昭和 36 年 3 月 22 日	第 4 回南濃消防操法大会に総合優勝
昭和 37 年 2 月 11 日 昭和 37 年 3 月 22 日 昭和 37 年 4 月 29 日	団旗竿頭綬表彰 第 5 回南濃消防操法大会に総合優勝 第 11 回県消防操法大会小型ポンプの部 5 位入賞
昭和 38 年 5 月 10 日	第 12 回消防操法大会自動車の部優勝
昭和 39 年 3 月 28 日 昭和 39 年 4 月 29 日 昭和 39 年 12 月 1 日	第 7 回南濃消防操法大会に総合優勝 第 13 回県消防操法大会小型ポンプの部 5 位入賞 知事旗表彰
昭和 40 年 4 月 29 日 昭和 40 年 10 月 13 日 昭和 40 年 12 月 24 日	第 14 回県消防操法大会自動車の部優勝 昭和 40 年 9 月 15 日の集中豪雨及び台風 15 号災害防止功労 国体警衛警備の事故防止功労
昭和 43 年 3 月 7 日	日本消防協会旗表彰
昭和 46 年 3 月 4 日 昭和 46 年 11 月 18 日	消防庁長官より竿頭綬表彰 昭和 46 年 11 月 18 日台風 13 号の風水害公務遂行功労
昭和 51 年 9 月 8 日	昭和 51 年 9 月 8 日台風 17 号の風水害公務遂行功労 竿頭綬、日本消防協会長、赤城宗徳

年 次	表 彰 事 項
昭和 5 9 年 8 月 5 日	第 3 3 回県消防操法大会小型ポンプの部 1 0 位入賞
平成 2 年 2 月 1 4 日	竿頭綬、日本消防協会長
平成 1 2 年 1 1 月 1 日	岐阜県知事より消防団年間優秀賞受賞
平成 1 3 年 3 月 8 日	消防庁長官より表彰旗表彰
平成 1 4 年 1 1 月 1 0 日 平成 1 4 年 1 1 月 1 1 日	岐阜県知事より消防団年間優秀賞受賞 国土交通省中部整備局長表彰
平成 1 8 年 8 月 6 日	第 5 5 回県消防操法大会小型ポンプの部 5 位入賞
平成 1 9 年 8 月 5 日	第 5 6 回県消防操法大会自動車ポンプの部 9 位入賞
平成 2 5 年 8 月 2 0 日	日本消防協会より竿頭綬表彰
平成 2 8 年 1 1 月 1 3 日	知事旗表彰
平成 2 9 年 1 1 月 3 0 日	国土交通省中部地方整備局長表彰

養老町消防団現勢力

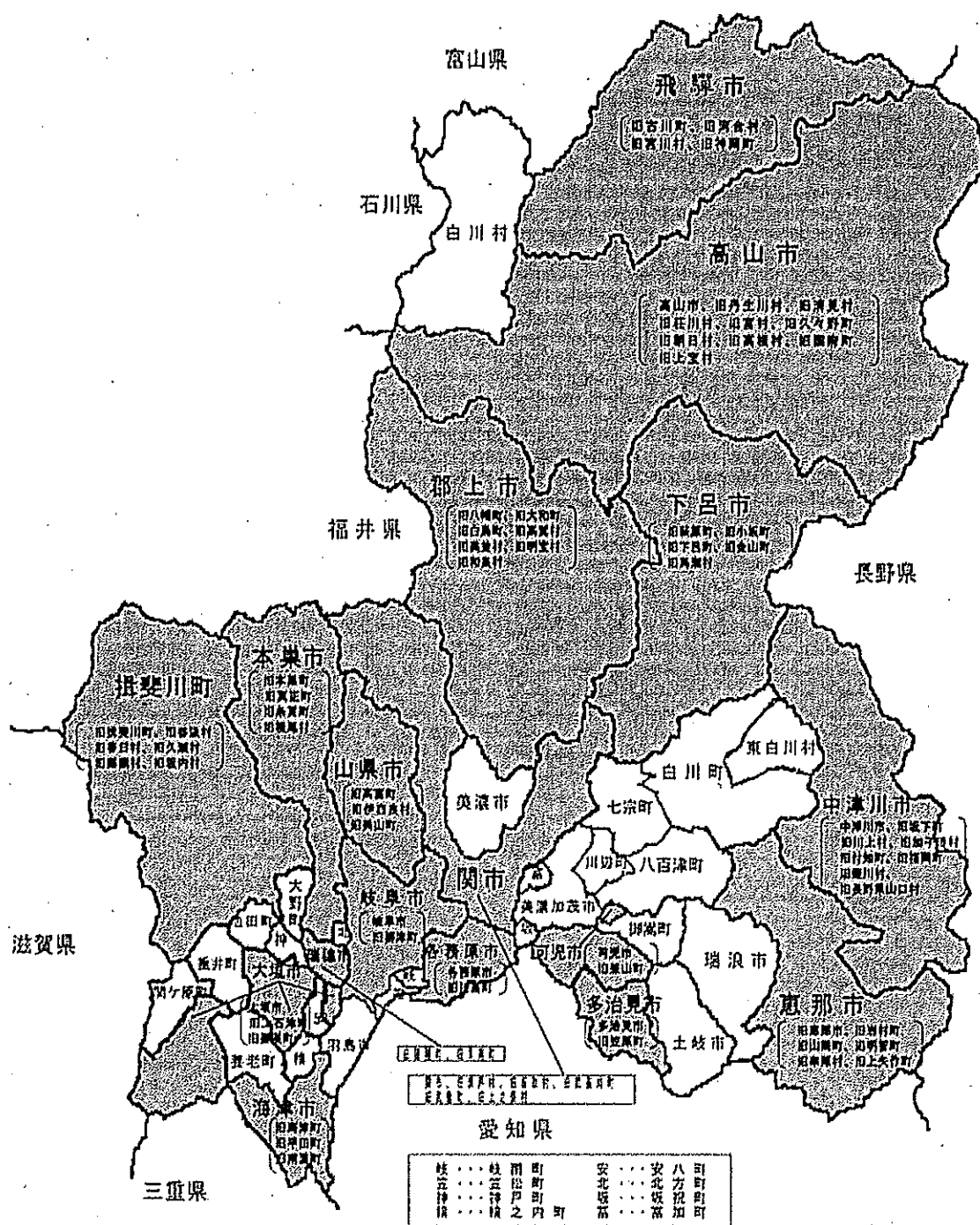
種別 分団別	人員		機械				
	定員	現在員	ポンプ車	小型ポンプ	普通車	多機能車	計
本 部	7	7		1	1	1	3
第1分団	60	60	1	4			5
第2分団	36	36	1	2			3
第3分団	26	26	1	1			2
第4分団	46	46	1	3			4
第5分団	64	63	1	5			6
第6分団	64	64	1	5			6
第7分団	26	26	1	1			2
第8分団	25	25	1	1			2
第9分団	36	36	1	2			3
ラッパ隊	10	10					
合 計	400	399	9	25	1	1	36

養老町消防団員在職年数調

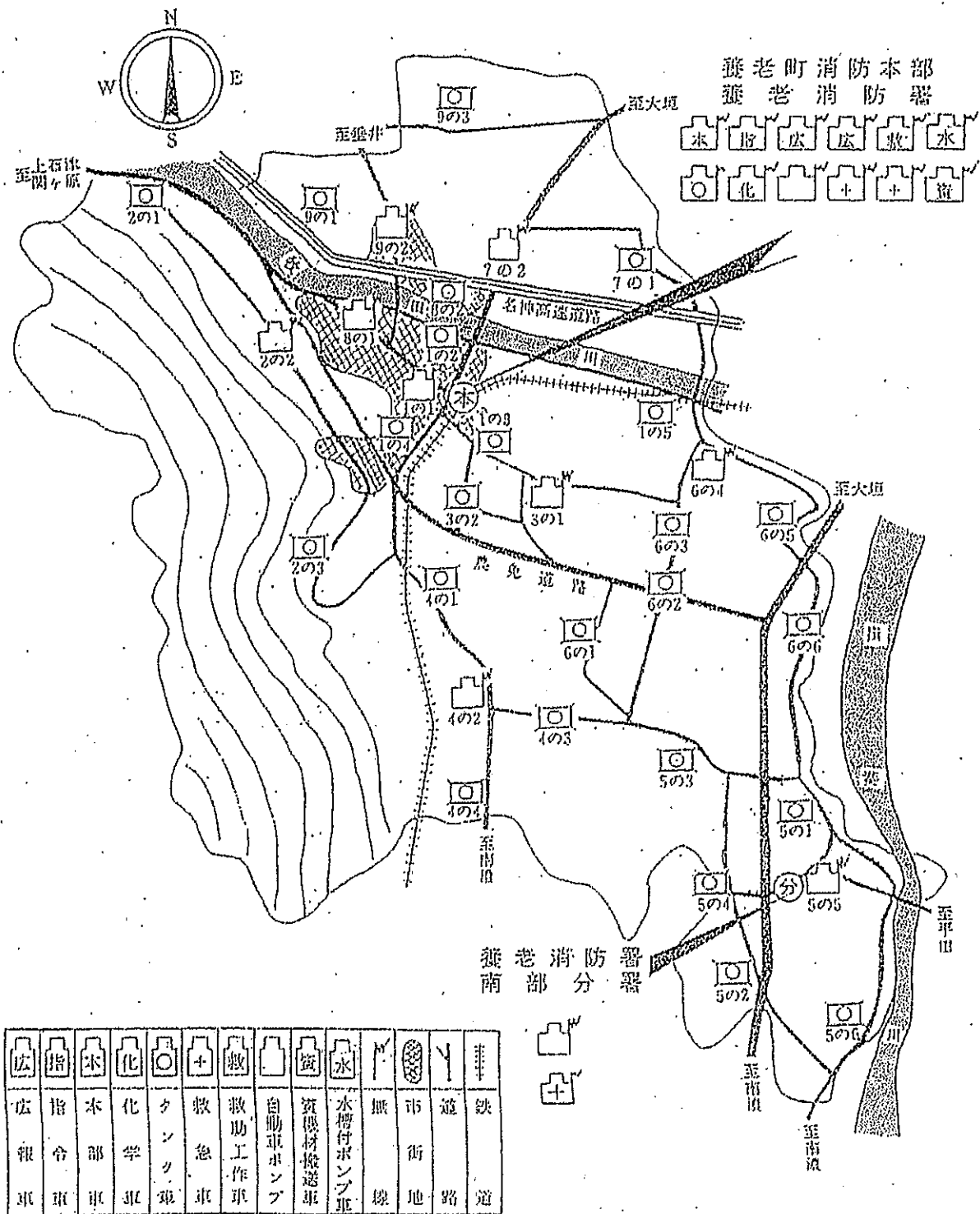
階級 年数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
1 年 未 満						2	73	75
1 年～4 年		1	1	3	30	52	132	219
5 年～9 年			2	3	2	9	48	64
10 年～14 年			5	3	1	3	14	26
15 年～19 年	1	2	3			1	4	11
20 年～24 年			1					1
25 年～29 年				1				1
30 年～34 年								
35 年～39 年			1		1			2
40 年以上								
計	1	3	13	10	34	67	271	399

養老町消防団ポンプ配置表

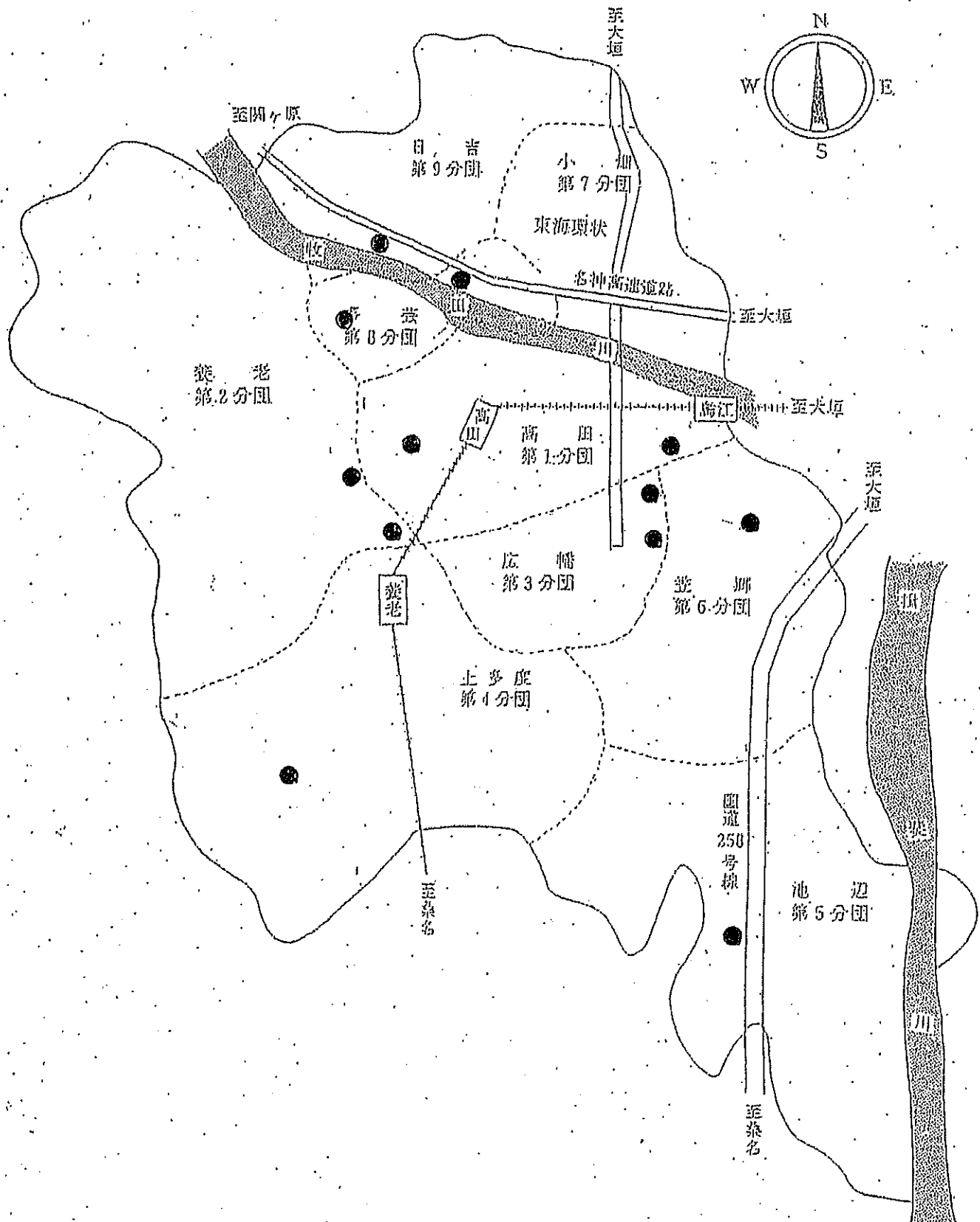
団 部		種 別	車名	登録年	ポ ン プ		
					名 称	型 式	規 格
	団本部	消防団 多機能車	日産	H28	トーハツ	片吸込1段式タービン	B2
1分団	1部	消防ポンプ自動車	ミツビシ	H13	長野	2段式バランスタービン	A2
	2部	小型ポンプ	—	H30	トーハツ	1段式タービン	B3
	3部	小型ポンプ	—	H29	〃	〃	B3
	4部	小型ポンプ	—	H26	〃	〃	B2
	5部	小型ポンプ	—	—	シバウラ	〃	B3
2分団	1部	小型ポンプ	—	—	トーハツ	〃	B3
	2部	消防ポンプ自動車	日野	H27	モリタ	2段式バランスタービン	A2
	3部	小型ポンプ	—	H26	トーハツ	1段式タービン	B2
3分団	1部	消防ポンプ自動車	日野	H16	長野	2段式バランスタービン	A2
	2部	小型ポンプ	—	H29	トーハツ	1段式タービン	B3
4分団	1部	小型ポンプ	—	—	〃	〃	B3
	2部	消防ポンプ自動車	いすゞ	H18	長野	2段式バランスタービン	A2
	3部	小型ポンプ	—	H25	トーハツ	1段式タービン	B2
	4部	小型ポンプ	—	—	〃	〃	B3
5分団	1部	小型ポンプ	—	H30	〃	〃	B3
	2部	小型ポンプ	—	—	〃	〃	B3
	3部	小型ポンプ	—	H26	〃	〃	B2
	4部	小型ポンプ	—	—	〃	〃	B3
	5部	消防ポンプ自動車	日野	H28	モリタ	2段式バランスタービン	A2
	6部	小型ポンプ	—	—	シバウラ	1段式タービン	B3
6分団	1部	小型ポンプ	—	H29	トーハツ	〃	B3
	2部	小型ポンプ	—	H30	〃	〃	B3
	3部	小型ポンプ	—	—	〃	〃	B3
	4部	消防ポンプ自動車	日野	H20	長野	2段式バランスタービン	A2
	5部	小型ポンプ	—	—	シバウラ	1段式タービン	B3
	6部	小型ポンプ	—	H25	トーハツ	〃	B2
7分団	1部	小型ポンプ	—	—	トーハツ	〃	B3
	2部	消防ポンプ自動車	日野	H26	モリタ	2段式バランスタービン	A2
8分団	1部	消防ポンプ自動車	いすゞ	H15	長野	〃	A2
	2部	小型ポンプ	—	—	トーハツ	1段式タービン	B3
9分団	1部	小型ポンプ	—	—	〃	〃	B3
	2部	消防ポンプ自動車	日野	H24	モリタ	2段式バランスタービン	A2
	3部	小型ポンプ	—	—	トーハツ	1段式タービン	B3



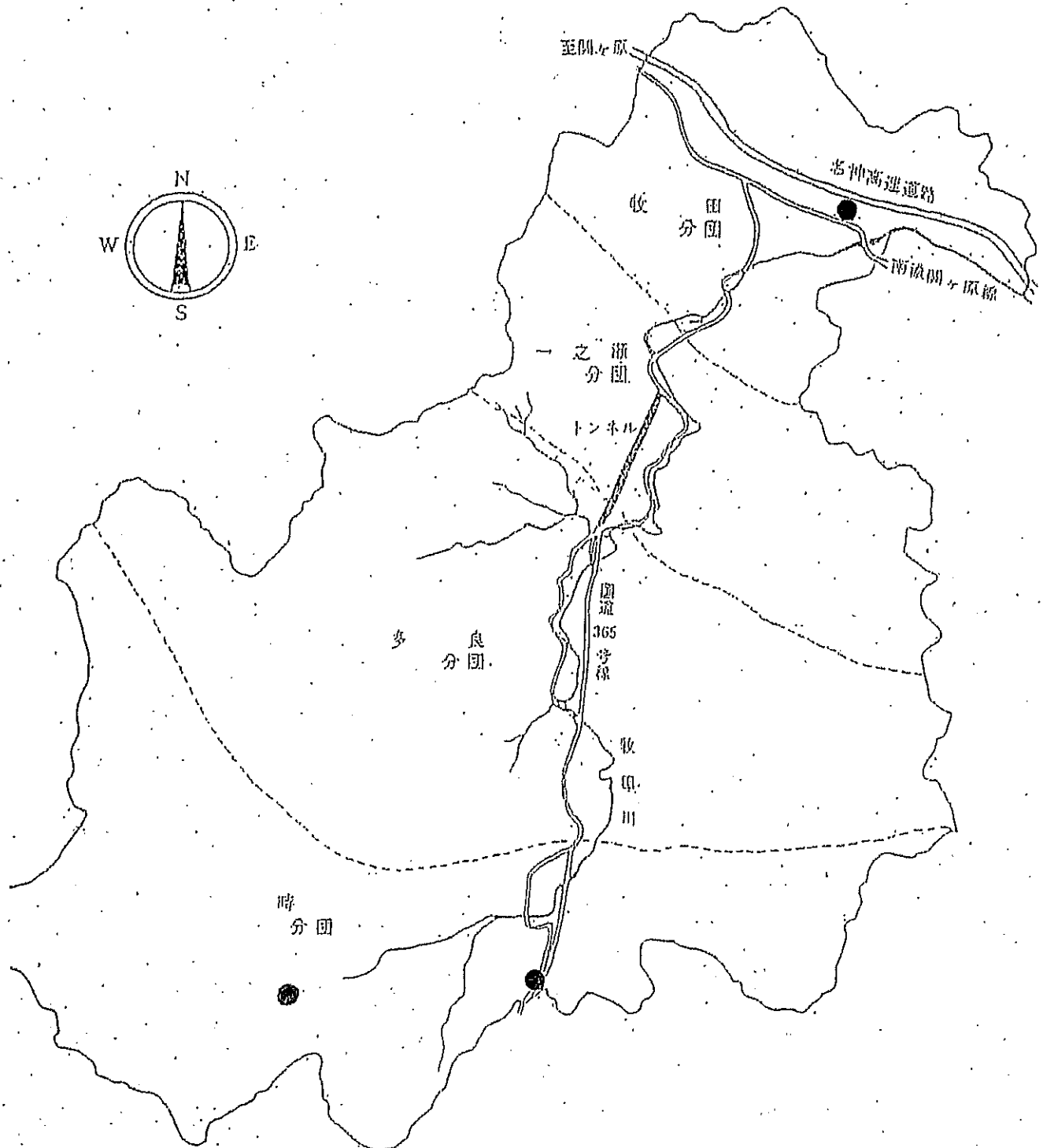
養老町消防ポンプ配置図



養老町火災発生分布図 (12件)

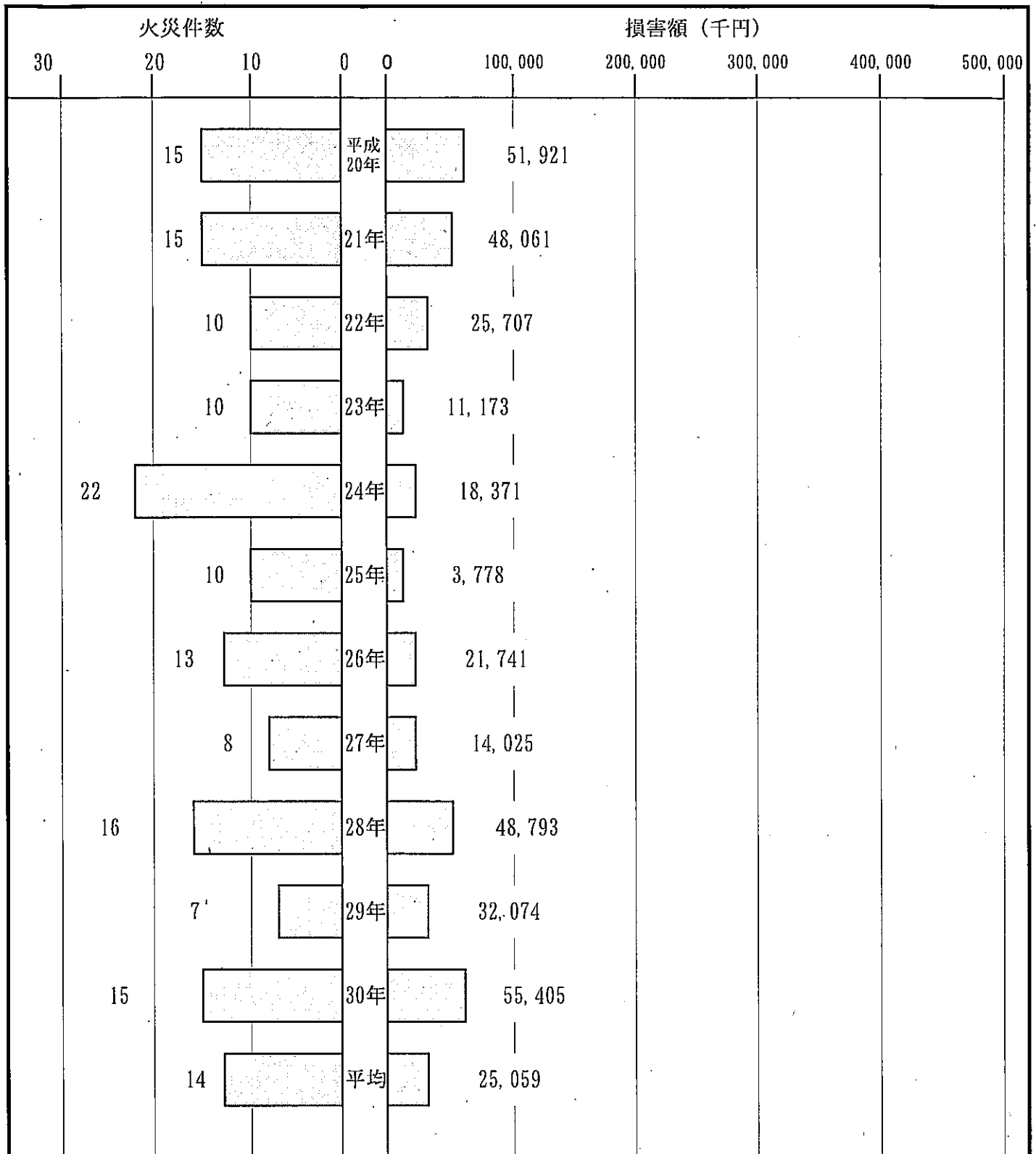


大垣市上石津町火災発生分布図（3件）



火災件数・損害額表

(平成20年～平成30年)



消防水利の現況

消防水利は、消防機械とともに消防活動を行ううえで必要不可欠なものである。この水利には打込式消火栓、防火水そう、プール等の人工水利と、河川、池、沼等の自然水利とがあるが、本町では昭和57年より上水道消火栓が新設され一段と充実される。

養 老 町

H31. 4. 1

種別 分団	水道 消火栓	150 mm 以上	打 込 式 消 火 栓	100m ³ 以 上 防 火 水 槽	40m ³ 以 上 未 満 防 火 水 槽	20m ³ 以 上 未 満 防 火 水 槽	マ ン ホ ー ル	河 川 ・ 溝	濠 ・ 池 等	井 戸	プ ール	計
1	212	45	26	2	16	1	16			2	3	278
2	167	29	2	1	20	1		1	1		1	194
3	81	13	3		8			4	1	8	1	106
4	137	34	10	1	34	19		5	2		1	209
5	176	32			36			13	8	1	1	235
6	167	45	5		34	5		6	1	4	2	224
7	103	21	4		5	2		7			1	122
8	106	8	12		21			1		1		141
9	106	24	24		17	1				1	1	150
計	1255	251	86	4	191	29	16	37	13	17	11	1659

大垣市上石津町

牧田					44	1					1	46
一之瀬					15						2	17
多良					66	3					1	70
時					40	6					1	47
計					165	10					5	180

火 災

出火件数は15件であり、前年と比べると8件の増加となっています。火災による損害額は55,405千円となり、前年と比べると23,331千円の増加となっています。

火災種別ごとに前年比較を見ると、建物火災7件（2件増）、林野火災0件（1件減）、車両火災4件（4件増）、その他火災4件（3件増）となっています。

また、出火原因別に見ると、「ボイラー」、「タイヤのバースト」、「薪の火の粉の飛び火」、「電線の老朽化（スパーク）」、「調理器具の操作ミス」、「たき火」、「トラッキング現象」、「整備不良によるエンジン過熱」、「水銀灯の輻射熱」のほか、「不明・調査中」5件となっています。

なお、火災による死者0名、負傷者が1名発生しました。今後とも、町民各位の一層の防火意識の高揚をお願いします。



火災統計

火災の程度

区 分		平成30年			平成29年	増	減
		養老町	大垣市 上石津町	合計			
出火件数	合計	12	3	15	7	8	
	建物火災	6	1	7	5	2	
	林野火災			0	1		1
	車両火災	3	1	4	0	4	
	その他火災	3	1	4	1	3	
損害見積額（千円）		52,788	2,617	55,405	32,074	23,331	
焼損棟数	全焼	2		2	4		2
	半焼			0	0		
	部分焼		1	1	3		2
	ぼや	4		4	2	2	
焼損面積	建物 (㎡)	床面積	737.07		737.07	563.61	173.46
		表面積	1.9	7.9	9.8	35	25.2
	林野（a）			0	6.9		6.9
死傷者	死者			0	0		
	負傷者		1	1	1		
り災世帯数		3		3	9		6
り災人員		6		6	15		9

	養 老 町	大垣市上石津町	平均
1 日 平 均 出 火 件 数	0.032件	0.008件	0.041件
火災1件当たり損害見積額	4,399千円	872千円	3,694千円
火災1件当たり建物焼損面積	61.5㎡	2.6㎡	49.8㎡

養 老 町	人 口	28,924人	世 帯 数	10,399世帯
大垣市上石津町		5,448人		1,993世帯
合 計		34,372人		12,392世帯

(H31.4.1)

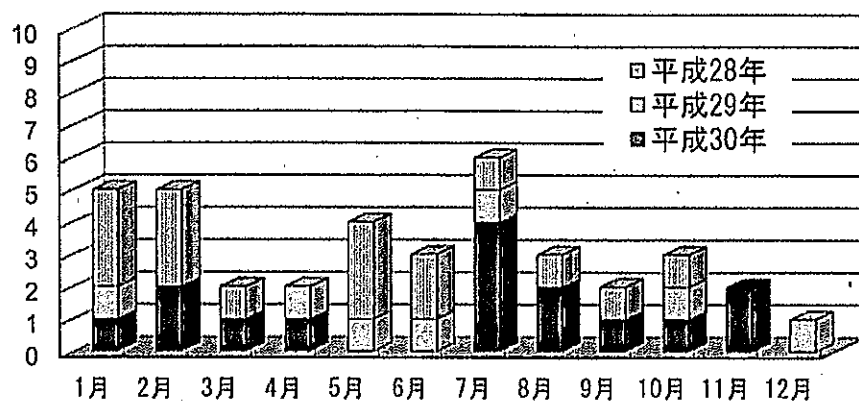
覚知別件数

区 分		合 計	火 災 種 別			
			建 物	林 野	車 両	その他
覚知別	合 計	15	7		4	4
火 災 報 知 専 用 電 話 (N T T 固 定 以 外)						
火 災 報 知 専 用 電 話 (N T T 固 定)		4	3			1
火 災 報 知 専 用 電 話 (携 帯 電 話)		8	3		3	2
加 入 固 定 電 話 (固 定 電 話)		3	1		1	1
加 入 携 帯 電 話 (携 帯 電 話)						
警 察 (1 1 0)						
駆 け 付 け						
事 後 聞 知						
そ の 他						

出火原因別件数

火災種別		合 計	建 物	林 野	車 両	その他
出火原因別	合 計					
		15	7		4	4
ボ イ ラ ー		1	1			
タ イ ヤ の バ ー ス ト		1			1	
薪の火の粉による飛び火		1	1			
電 線 の 老 朽 化		2	1			1
調 理 器 具 の 操 作 ミ ス		1	1			
た き 火		1				1
ト ラ ッ キ ン グ 現 象		1	1			
整備不良によるエンジン過熱		1			1	
水 銀 灯 の 輻 射 熱		1				1
不 明 ・ 調 査 中		5	2		2	1

月別火災件数（過去3年間）



月別火災状況

区分 月別	出 火 件 数					死 傷 者		焼 損 面 積			損害見積額 (千円)
	合 計	建 物	林 野	車 両	そ の 他	死 者	負 傷 者	建物 (㎡)		林野 (a)	
								床面積	表面積		
合 計	15	7	0	4	4	0	1	737.07	9.8	0	55,405
1月	1	1							7.9		137
2月	2			2							2,593
3月	1				1						4
4月	1	1							0.9		204
5月											
6月											
7月	4	3			1		1	737.07			47,472
8月	2	1			1				1		10
9月	1			1							422
10月	1			1							443
11月	2	1			1						4,120
12月											

救 急

救急出動件数は1,623件であり、前年と比べると55件の減少となっています。また搬送人員においては1,498人と前年比較50人の減少となっています。

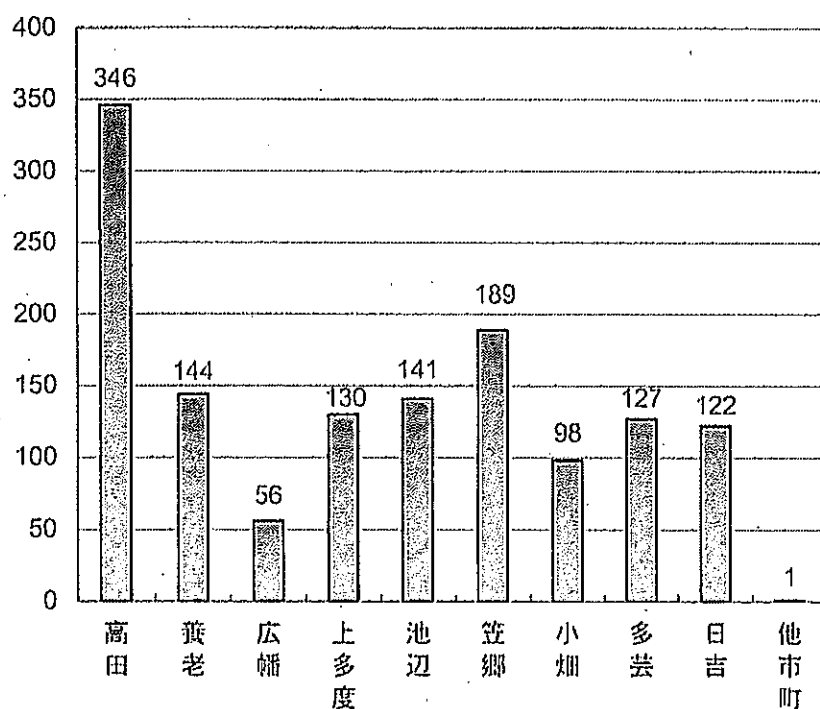
このことは、管内において1日平均4.1人の傷病者を病院に搬送したことになります。

救急種別ごとに前年比較を見ると、「急病」1,129件(24件減)、「一般負傷」238件(同件)、「交通事故」120件(31件減)となっており、「急病」が全体の69.6%を占め、以下「一般負傷」14.7%、「交通事故」7.4%の順となっています。昨年同様、1位「急病」、2位「一般負傷」、3位「交通事故」の順となっています。

町民各位の正しい救急車の利用を理解願い、救急活動が円滑に実施できますようご協力をお願いします。



地区別救急出動件数 (養老町)

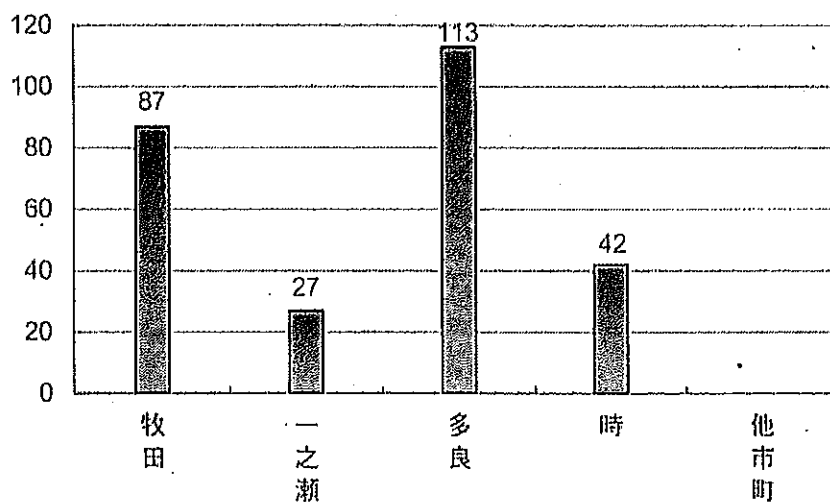


養老町

1,354 件

地区別	出場件数
高田	346
養老	144
広幡	56
上多度	130
池辺	141
笠郷	189
小畑	98
多芸	127
日吉	122
他市町	1
合計	1,354

地区別救急出動件数 (大垣市上石津町)

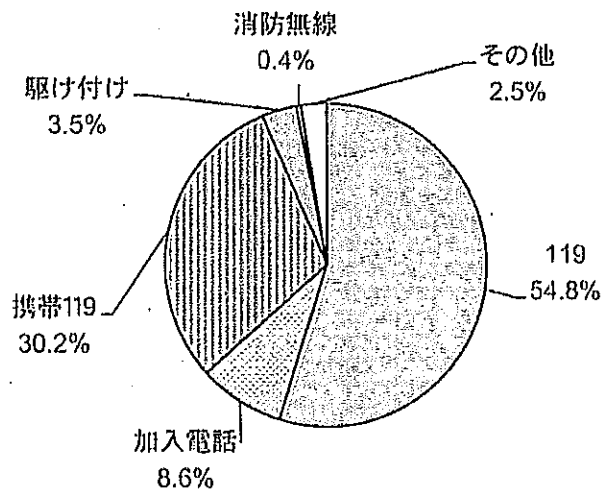


大垣市上石津町

269 件

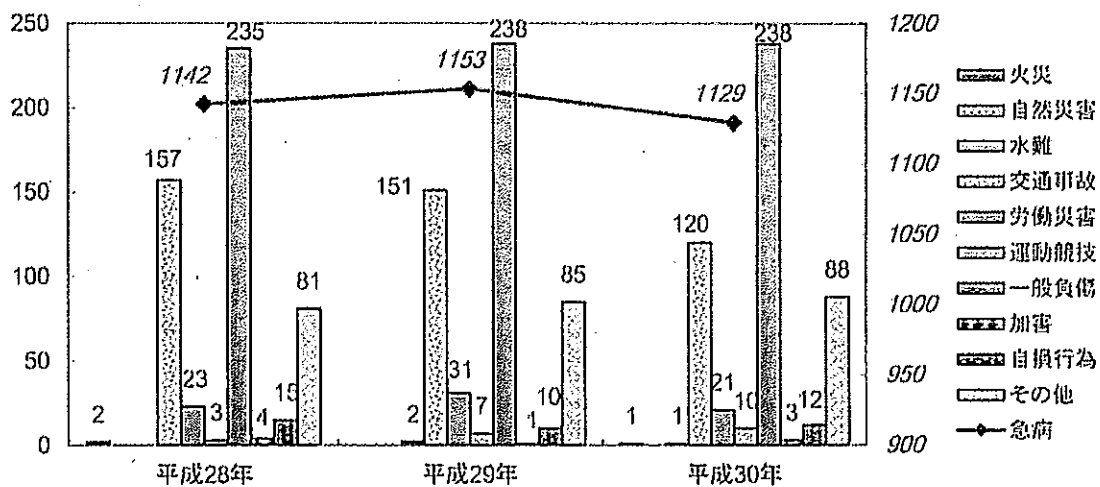
地区別	出場件数
牧田	87
一之瀬	27
多良	113
時	42
他市町	0
合計	269

覚知別通報件数



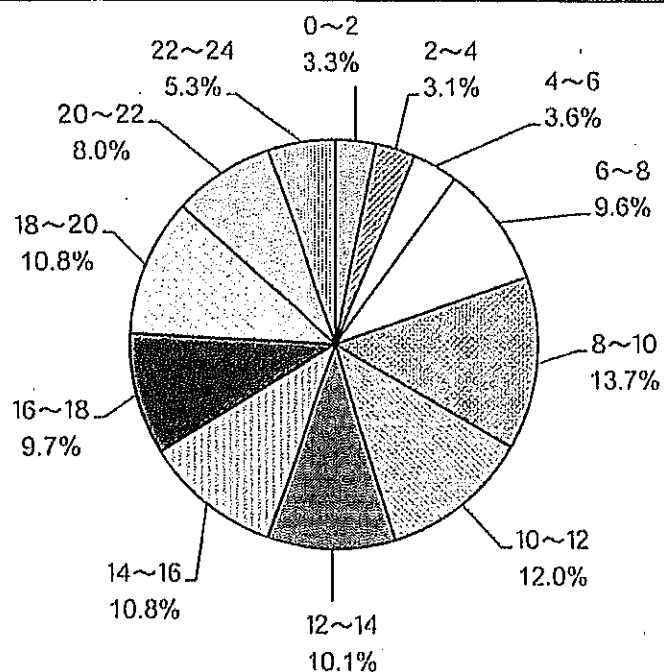
	件数	%
119	889	54.8%
加入電話	139	8.6%
携帯119	490	30.2%
駆け付け	57	3.5%
自己覚知		
消防無線	7	0.4%
その他	41	2.5%
合 計	1,623	

過去3年間救急出動件数



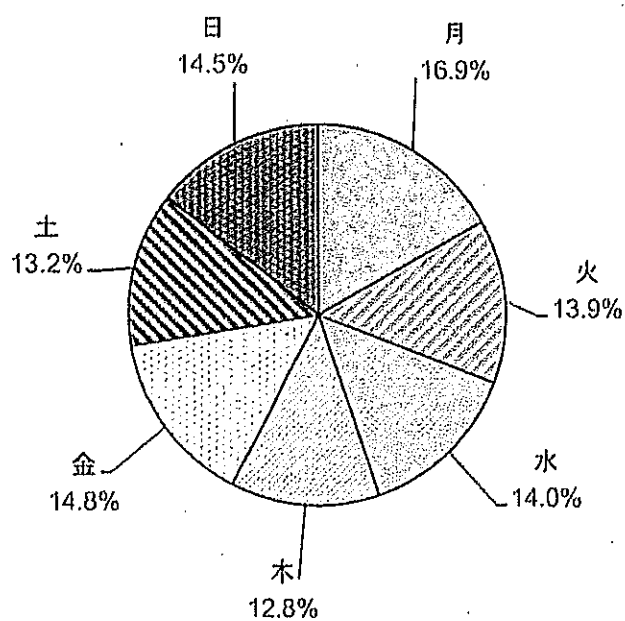
年	出動件数			搬送人員		
	平成28年	平成29年	平成30年	平成28年	平成29年	平成30年
合 計	1,662	1,678	1,623	1,555	1,548	1,498
火 災	2		1	1		1
自然災害						
水 難		2	1		2	1
交通事故	157	151	120	164	151	121
労働災害	23	31	21	22	31	21
運動競技	3	7	10	3	7	10
一般負傷	235	238	238	219	222	224
加 害	4	1	3	4	1	3
自損行為	15	10	12	10	3	10
急 病	1142	1153	1129	1065	1063	1037
そ の 他	81	85	88	67	68	70

時間別救急出動件数



時間帯	件数	%
0~2	53	3.3%
2~4	51	3.1%
4~6	59	3.6%
6~8	156	9.6%
8~10	222	13.7%
10~12	194	12.0%
12~14	164	10.1%
14~16	175	10.8%
16~18	157	9.7%
18~20	176	10.8%
20~22	130	8.0%
22~24	86	5.3%
合 計	1,623	

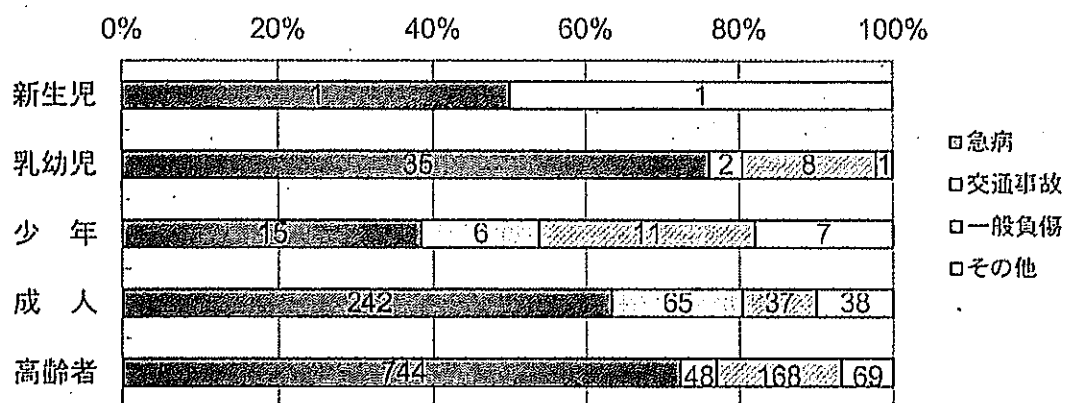
曜日別救急出動件数



曜日	件数	%
月	274	16.9%
火	226	13.9%
水	227	14.0%
木	207	12.8%
金	240	14.8%
土	214	13.2%
日	235	14.5%
合 計	1,623	

※ 構成比は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

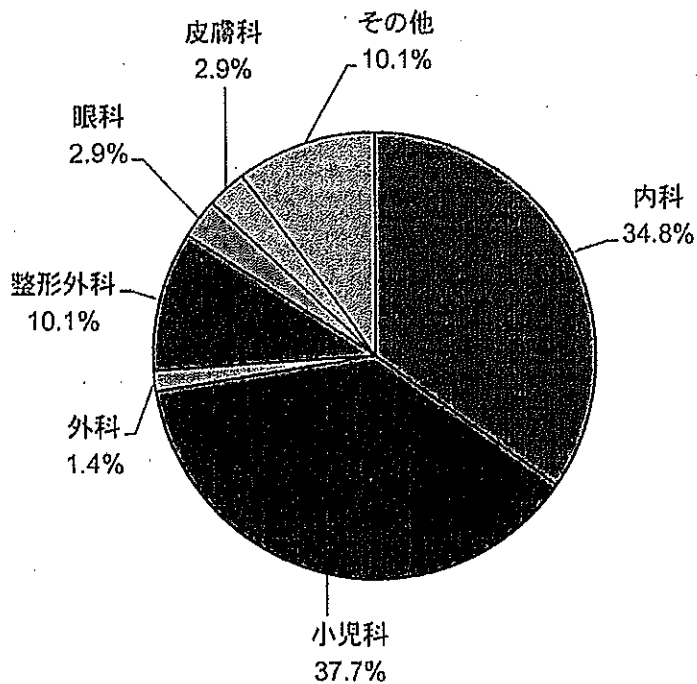
事故種別・年齢区分別搬送人員



	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
全 体	1,037	121	224	116	1,498
新生児	1			1	2
乳幼児	35	2	8	1	46
少年	15	6	11	7	39
成人	242	65	37	38	382
高齢者	744	48	168	69	1,029

※
 新生児：生後28日以内の者
 乳幼児：生後29日以上満7歳未満の者
 少年：満7歳以上18歳未満の者
 成人：満18歳以上65歳未満の者
 高齢者：満65歳以上

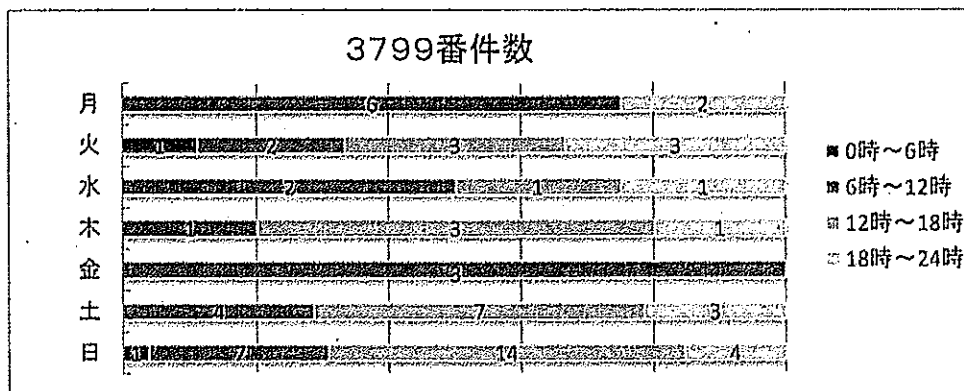
救急医療情報システム案内状況（診療科目別）



診療科目	件数	%
内科	24	34.8%
小児科	26	37.7%
外科	1	1.4%
整形外科	7	10.1%
耳鼻咽喉科		
眼科	2	2.9%
皮膚科	2	2.9%
その他	7	10.1%
合計	69	

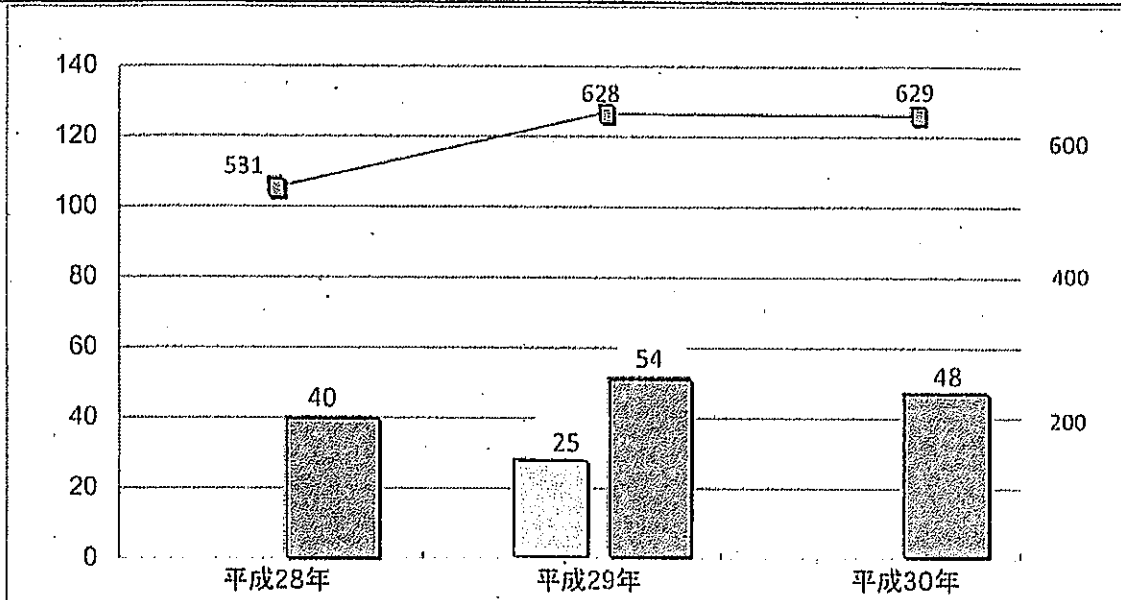
※ 構成比は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、100%にならないことがあります。

救急医療情報システム案内状況（時間帯、曜日別）



時間帯 \ 曜日	月	火	水	木	金	土	日	合計
0時～6時		1					1	2
6時～12時	6	2	2	1	3	4	7	25
12時～18時		3	1	3		7	14	28
18時～24時	2	3	1	1		3	4	14
合計	8	9	4	5	3	14	26	69

普通救命講習等受講者数

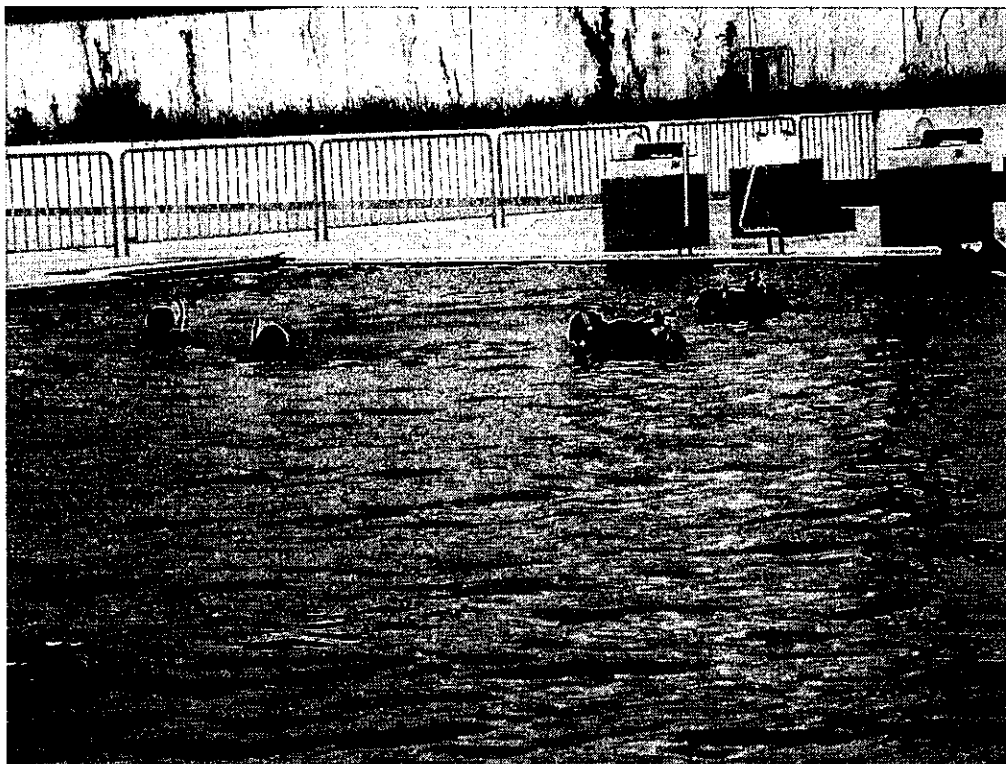


講習種別	平成28年	平成29年	平成30年
普通救命講習Ⅰ	531	628	629
普通救命講習Ⅱ			
普通救命講習Ⅲ		25	
上級救命講習	40	54	48

救 助

災害が複雑多様化かつ大規模化する中で、消防の使命は、ますます重要性を増しており、人命救助は、消防の最も重要な任務であり、住民の消防に寄せる期待は、更に大きくなっております。

この期待に応えるため、時代の変化に即応した救助体制及び資機材の整備に加え、消防職員の救助活動に関する訓練はより高度な知識・技術が要求されます。



事故種別救助活動・出動車両状況

(平成30年)

事故種別 区分		火災	交通 事故	水難 事故	風水害 等自然 災害	機械等 による 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	破裂 事故	その他 の 事故	合計
出動件数			14			1					15
活動件数			11								11
救助人員			13								13
傷病 程度	死亡		2								2
	重症		2								2
	中等症		5								5
	軽症		4								4
	不搬送										
出動 人員	救助隊員		44			4					48
	消防隊員		10								10
	救急隊員		63			3					66
	計		117			7					124
活動 人員	救助隊員		34								34
	消防隊員		8								8
	救急隊員		51								51
	計		93								93
出動 車両 等	救助工作車		14			1					15
	ポンプ自動車										
	化学車										
	指令車		5								5
	救急車		20			1					21
	ヘリコプター										
	その他										
計			39			2					41

救 助 活 動 に

救助 番号	月 / 日	発 時	知 分	発 生 場 所	種 別	要 救 助 者	出 動 人 員 及			
							救助隊員		救急隊員	
							出動人員	活動人員	出動人員	活動人員
1	2 / 21	14 : 23		養老町橋爪地内	機械事故	0	4	0	3	0
2	3 / 20	15 : 13		養老町沢田地内	交通事故	2	4	4	6	6
3	4 / 9	9 : 54		養老町釜段地内	交通事故	1	3	3	3	3
4	7 / 24	16 : 35		養老町岩道地内	交通事故	1	2	2	4	4
5	7 / 25	9 : 52		養老町沢田地内	交通事故	1	4	4	3	3
6	8 / 7	22 : 29		養老町高田地内	交通事故	0	3	0	3	0
7	10 / 5	13 : 4		養老町下笠地内	交通事故	1	3	3	6	6
8	10 / 24	4 : 50		養老町高田地内	交通事故	1	3	3	3	3
9	11 / 6	17 : 44		養老町横屋地内	交通事故	1	3	3	7	7
10	12 / 23	11 : 27		養老町岩道地内	交通事故	1	3	3	4	4
11	12 / 31	7 : 46		養老町宇田地内	交通事故	0	3	0	6	0
養 老 郡 養 老 町 小 計 11 件						9	35	25	48	36
1	5 / 28	7 : 33		上石津町上多良地内	交通事故	0	4	0	3	0
2	9 / 15	12 : 46		上石津町一之瀬地内	交通事故	2	3	3	9	9
3	10 / 17	12 : 53		上石津町奥地内	交通事故	1	3	3	3	3
4	12 / 31	20 : 28		上石津町打上地内	交通事故	1	3	3	3	3
大 垣 市 上 石 津 町 小 計 4 件						4	13	9	18	15
養 老 町 消 防 本 部 合 計 15 件						13	48	34	66	51

関する一覧表

平成 30 年 中

び 活 動 人 員				活動の有無	出 動 車 両 台 数								応援人員			備 考
消防隊員		消防団員			工作車	救急車	化学車	ポンプ車	指令車	その他	ヘリコプター	団 ポンプ車	警察	民間	その他	
出動人員	活動人員	出動人員	活動人員													
				無	1	1										
2	2			有	1	2			1				4		4	Drヘリ
2	2			有	1	1			1				7		4	Drヘリ
2	2			有	1	1			1				8			
2	2			有	1	1			1				5		4	Drヘリ
				無	1	1							2			
				有	1	2							5			
				有	1	1							2			
				有	1	2							6			
				有	1	1							4			
				無	1	2							3			
8	8	0	0		11	15	0	0	4	0	0	0	46	0	12	
2	0			無	1	1			1				3			
				有	1	3							10			
				有	1	1							2			
				有	1	1							2			
2	0	0	0		4	6	0	0	1	0	0	0	17	0	0	
10	8	0	0		15	21	0	0	5	0	0	0	63	0	12	

予 防 事 務



防火対象物調

区分	分類別	合計	防火対象物	
			甲種	乙種
1	イ	劇場・映画館・演芸場又は観覧場	2	
	ロ	公会堂・集会場	26	
2	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブの類		
	ロ	遊戯場又はダンスホール	3	
	ハ	風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第2条第5項に規定する性風俗関連特殊営業を営む店舗		
	ニ	カラオケボックス等		
3	イ	待合・料理店の類	4	3
	ロ	飲食店	34	11
4		百貨店・マーケット・店舗又は展示場	45	25
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	10	9
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	50	30
6	イ	病院・診療所・助産所	28	12
	ロ	主に入居を伴う社会福祉施設 (老人短期入所施設、特別養護老人ホーム等)	18	16
	ハ	主に通所の社会福祉施設 (老人デイサービスセンター等)	36	21
	ニ	幼稚園・盲学校・聾学校又は養護学校		
7		小学校・中学校・高等学校・その他	17	17
8		図書館・博物館又は美術館	3	
9	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場・熱気浴場		
	ロ	イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	1	1
10		車両の停車場又は船舶・航空機の発着場	4	4
11		神社・寺院・教会・その他	81	38
12	イ	工場又は作業場	146	146
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ		
13	イ	自動車車庫又は駐車場	1	1
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫		
14		倉庫	86	71
15		前各項に該当しない事業場	55	44
16	イ	複合用途防火対象物のうち 1項～4項、5項のイ、 6項又は9項のイ	6	6
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	5	4
16の2		地下街		
16の3		準地下街		
17		重要文化財・重要民俗資料	2	1
18		延長50m以上のアーケード		
19		市町村の指定する山林		
20		自治省令で定める舟車		
合 計		663	486	177

消防用設備等の指導

不幸にして火災が発生したとき、①早く知り、知らせる。②早く消す。③安全避難が大切です。
このため消防法では一定の防火対象物の構造、用途、規模に対応した消防用設備の設置および維持管理を義務付けております。

消防法では、これらの消防用設備が法令の技術上の基準に適合して設置され、かつ火災が発生した場合、その機能に応じいつでも有効に働くよう維持管理の指導を行っております。

対象物別消防用設備状況 養老町 大垣市上石津町

設備名 設置対象物用途別			消火設備					警報設備			避難設備		消火活動上必要な施設	
			消火栓設備内	消火栓設備外	スプリンクラー消火設備	散水設備	連結送水管	報知設備	自動火災警報設備	非常用警報器	誘導灯	避難器具	消防用水	排煙設備
1	イ	劇場・映画館・演芸場又は観覧場	1					2			2			
	ロ	公会堂・集会場等	4					26	6		25			
2	ロ	遊技場・ダンスホール	1		1			3	2		3			1
3	イ	待合・料理店						4			4			
	ロ	飲食店	2					9	10	1	71	1		
4		百貨店・マーケット等	7		4			26	21		43			
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	5					9		3	10	5		
	ロ	寄宿舎・共同住宅等					1	15	14			22		
	イ	病院・診療所・助産所	2		1		1	10	6		27			
6	ロ	主に入居を伴う社会福祉施設	1		18		1	18	5		18	5		
	ハ	主に通所の社会福祉施設	2		1			24	4		34	2		
	ニ	幼稚園又は特別支援施設学校												
7		小・中・高・大学・各種学校	15					17	6			12		
8		図書館・博物館又は美術館							1		2			
9	ロ	公衆浴場												
11		神社・寺院・教会 その他これらに類するもの	1					1						
12	イ	工場又は作業場	60	11				137		3	6		13	
13	イ	自動車車庫又は駐車場						1			1			
14		倉庫	15	5				69					1	
15		前各項に該当しない事業場	10					25	1		2			
16	イ	複合用途防火対象物のうち1項～4項、 5項のイ6項又は9項のイ	4					6	4		6	1		
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物						3			3	1		
17		重要文化財・ 重要民俗資料等建築物		1				2						
合 計			130	17	25	0	3	407	80	7	257	49	14	1

危険物製造所等地区別現況表

(完成検査済)

製造所等 地区別		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
				屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所
養 老 町	高 田	43	1	5	3		13		6	1	7		7
	養 老	21		2	6		5		4		1		3
	広 幡	3		2	1								
	上多度	30		2	19		2			2	1		4
	池 辺	11			2	1	2				2		4
	笠 郷	22		4		1	6			1	5		5
	小 畑	9		3			1		1	1	3		
	多 芸	33		3	11		3		10	1	1		4
	日 吉	20		4	4		3			1	3		5
小 計		192	1	25	46	2	35		21	7	23		32
大垣市 上石津町	牧 田	36	1	4	14		4				3		10
	一之瀬	11		1	3		1		2		3		1
	多 良	12					4		2		4		2
	時	3									2		1
小 計		62	1	5	17		9		4		12		14
合 計		254	2	30	63	2	44		25	7	35		46

類別危険物製造所等調

(完成検査済)

製造所等 類別		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
				屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所
単 独	第1類												
	第2類												
	第3類												
	第4類	254	2	30	63	2	44		25	7	35		46
	第5類												
	第6類												
混 在													
合 計		254	2	30	63	2	44		25	7	35		46

数量別危険物製造所等調

(完成検査済)

製造所等の別 倍数別	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
			屋内貯蔵所	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所
5 倍以下	97	1	8	10	2	21		17	7	10		21
5 倍を超え 10 倍以下	62		20	20		6		4		2		10
10 倍を超え 50 倍以下	64	1	2	28		14				5		14
50 倍を超え 100 倍以下	9			2		1		4		1		1
100 倍を超え 150 倍以下	9			3		1				5		
150 倍を超え 200 倍以下	3									3		
200 倍を超え 1000 倍以下	10					1				9		
1000 倍を 超えるもの												
計	254	2	30	63	2	44		25	7	35		46

危険物製造所等設置変更許可件数表

製造所等の別 区 分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
			屋内貯蔵所	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所
設 置	1		1									
変 更	6		1					1		3		1

危険物製造所等完成検査済証交付件数表

製造所等の別 区 分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所		
			屋内貯蔵所	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所
設 置	1		1									
変 更	5		1					1		3		

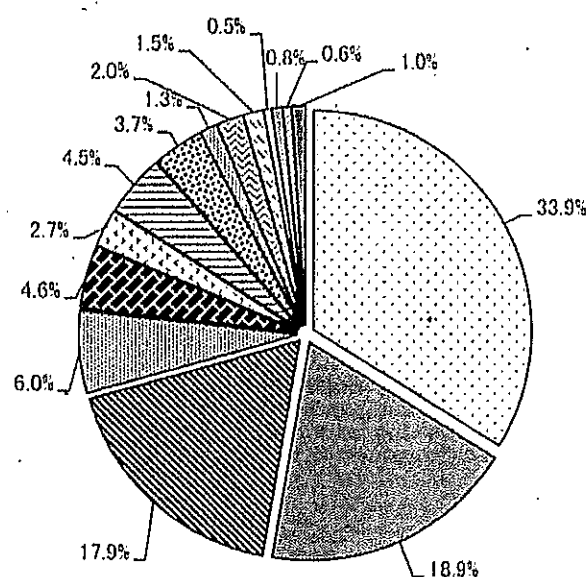
建築同意構造統計表

種別	月	小計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
木	造	18	1	2	1	1	5			2	2	2	1	1
鉄	骨	34	4	3	3	3	2	1	3	2	5	3	1	4
耐	火	2									1	1		
木	質	0												
そ	の	5		1	1							1	2	
合	計	59	5	6	5	4	7	1	3	4	8	7	4	5

建築同意工事別統計表

種別	月別	小計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
新	築	47	3	4	4	3	6	1	3	2	8	6	3	4
増	築	8	1	2			1			1		1	1	1
改	築	2				1				1				
そ	の	2	1		1									
合	計	59	5	6	5	4	7	1	3	4	8	7	4	5

各種届出処理状況



項目名	件	%
□消防用設備点検結果報告書	370	33.9
□道路工事届	207	18.9
■火災とまぎらわしい届	196	17.9
□消防計画作成(変更)届	66	6.0
□防火管理者選・解任届	50	4.6
□消防用設備工事計画書	30	2.7
□工事整備対象設備等着工届	49	4.5
□消防用設備等設置届	40	3.7
□動産・不動産り災申告書	14	1.3
□煙火打上げ届け	22	2.0
□発電・変電・蓄電池設備設置届	16	1.5
□誓約書	6	0.5
□防火対象物点検結果報告書	9	0.8
□少量危険物貯蔵・取扱届	7	0.6
□防火対象物使用開始届	11	1.0
合 計 値	1093	

業態別建築物確認申請同意状況

業態 \ 月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
住 宅		2	1		2		1	1		2	1		10
店 舗 付 住 宅													
車 庫 付 住 宅													
作 業 場 付 住 宅													
車 庫									1	1	1		3
共 同 住 宅 ・ 長 屋										1			1
物 置													
店 舗	1		1	1					1	1			5
倉 庫			1									1	2
農 業 用 倉 庫													
工 場	1	1		1	1			1					5
作 業 所												1	1
事 務 所	1	1	1		1	1					1		6
研 修 所													
学 校													
倉 庫 付 住 宅													
幼 稚 園													
病 院 ・ 医 院		1	1										2
寄 宿 舎 ・ 寮													
給 油 取 扱 所													
事 務 所 付 住 宅													
飲 食 店													
老 人 福 祉 施 設									1				1
保 育 園										1			1
寺院・神社・教会													
そ の 他	2	1		2	3		2	2	5	1	1	3	22
合 計	5	6	5	4	7	1	3	4	8	7	4	5	59

気 象



月 別 気 象

(標高10m)

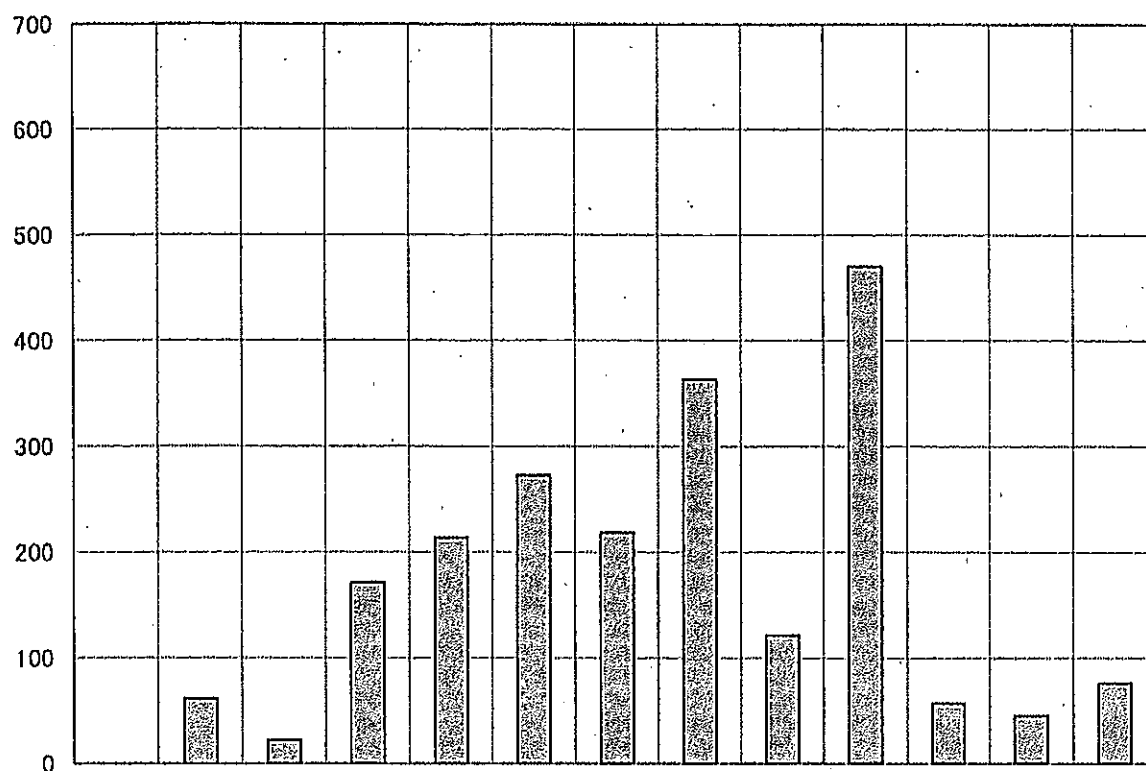
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
天 候	晴	22	19	19	18	16	12	18	21	9	19	22	14	209
	曇	6	8	6	7	9	13	9	6	10	11	7	14	106
	雨	2	1	6	5	6	5	4	4	11	1	1	2	48
	雪	1											1	2

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	最高	最低	平均	起時
最高気温	12.5	14.6	24.1	29.0	30.0	34.2	38.1	37.7	33.0	27.5	21.8	19.0	38.1			7月22日
最低気温	-3.7	-3.8	-0.3	2.0	7.6	13.9	21.5	17.9	15.6	9.2	3.0	-1.4		-3.8		2月7日
平均気温	3.1	3.6	9.6	15.1	18.6	22.5	28.6	28.6	22.7	17.8	13.0	7.2			15.9	
最高湿度	99.4	98.8	99.1	99.1	99.1	98.8	98.8	98.6	99.4	99.1	99.1	99.4	99.4			1月9日
最低湿度	36.3	27.7	23.6	20.8	15.5	29.4	35.5	30.8	38.8	39.1	35.0	35.5		15.5		5月24日
平均湿度	85.2	75.8	73.8	73.9	75.6	80.6	79.8	76.5	88.2	81.2	80.9	86.3			79.8	
実効湿度	84.9	77.3	74.0	73.1	74.4	80.2	80.4	76.2	87.0	81.7	80.6	85.6	95.3	61.8	79.6	
平均風速	3.7	3.7	3.9	3.4	2.7	2.7	2.4	3.0	2.2	2.8	3.0	3.1			3.0	
平均風向	西北西	西北西	西北西	西北西	西北西	西北西	南東	西北西	北西	西北西	北西	西北西				
最大瞬間風速	24.3	19.9	24.7	23.6	25.4	19.4	20.5	27.1	31.1	31.4	15.2	20.7	31.4			10月1日
最大瞬間時風向	西	西	西北西	西北西	西北西	西北西	東	東南東	東南東	西	西北西	西				
時間最大雨量	3.5	4.0	14.5	15.5	13.5	24.5	30.0	18.5	55.0	5.0	9.0	5.0	55.0			9月3日
日最大雨量	20.5	12.5	45.5	54.5	61.5	80.0	130.5	34.0	71.5	25.5	35.5	17.5	130.5			7月5日
月積算雨量	61.5	22.5	171.5	213.5	272.5	218.5	363.5	121.5	470.5	57.0	45.5	76.5	470.5			9月
現地気圧	1015.7	1017.2	1016.0	1013.6	1010.3	1007.2	1008.0	1006.8	1010.6	1014.3	1018.3	1019.3	1030.8	969.7		

(気温・℃ 湿度・% 風速・m/s 雨量・mm 気圧・hpa)

風向頻度 (%)	北	北北東	北東	東北東	東	東南東	南東	南南東
	2.2	1.2	1.2	1.5	2.8	5.6	6.5	3.4
	南	南南西	南西	西南西	西	西北西	北西	北北西
	2.2	1.5	1.4	2.1	8.6	29.8	23.6	4.3
	静穏							
	2.2							

雨 量 統 計



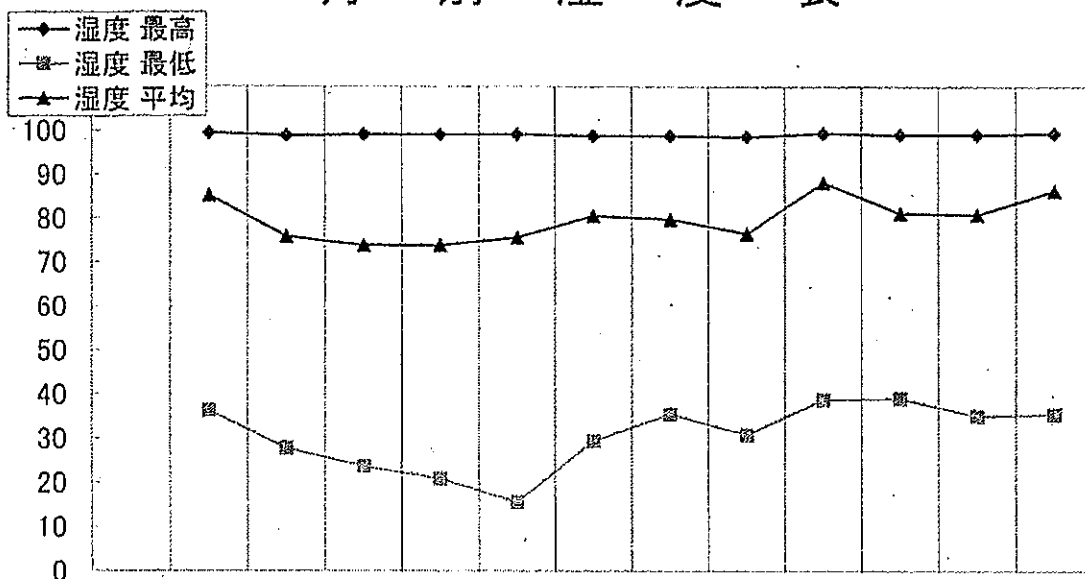
項目 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
雨量(mm)A	61.5	22.5	171.5	213.5	272.5	218.5	363.5	121.5	470.5	57.0	45.5	76.5	2094.5

過 去 5 年 間 の 雨 量 統 計

(mm)

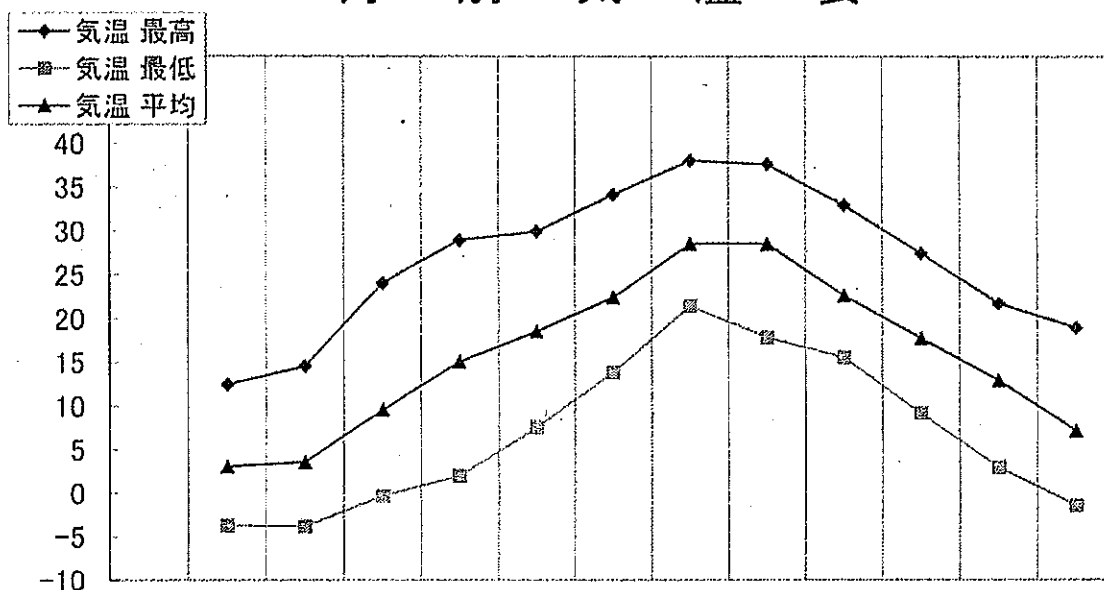
年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
平成29年	51.5	49.5	68.5	175.5	84.0	219.5	164.0	197.5	171.5	570.5	39.5	54.5	1846.0
平成28年	66.0	71.0	89.5	232.5	189.0	342.0	241.0	60.5	395.0	138.5	76.0	64.5	1965.5
平成27年	101.0	55.0	162.5	162.0	174.5	336.0	287.5	297.0	321.0	71.5	150.5	146.5	2265.0
平成26年	48.0	72.0	126.5	90.5	142.5	52.0	243.0	413.5	128.0	261.5	86.5	72.5	1736.5
平成25年	64.5	76.0	23.0	166.5	107.5	123.5	196.5	96.0	455.0	270.5	75.5	91.5	1746.0

月 別 湿 度 表



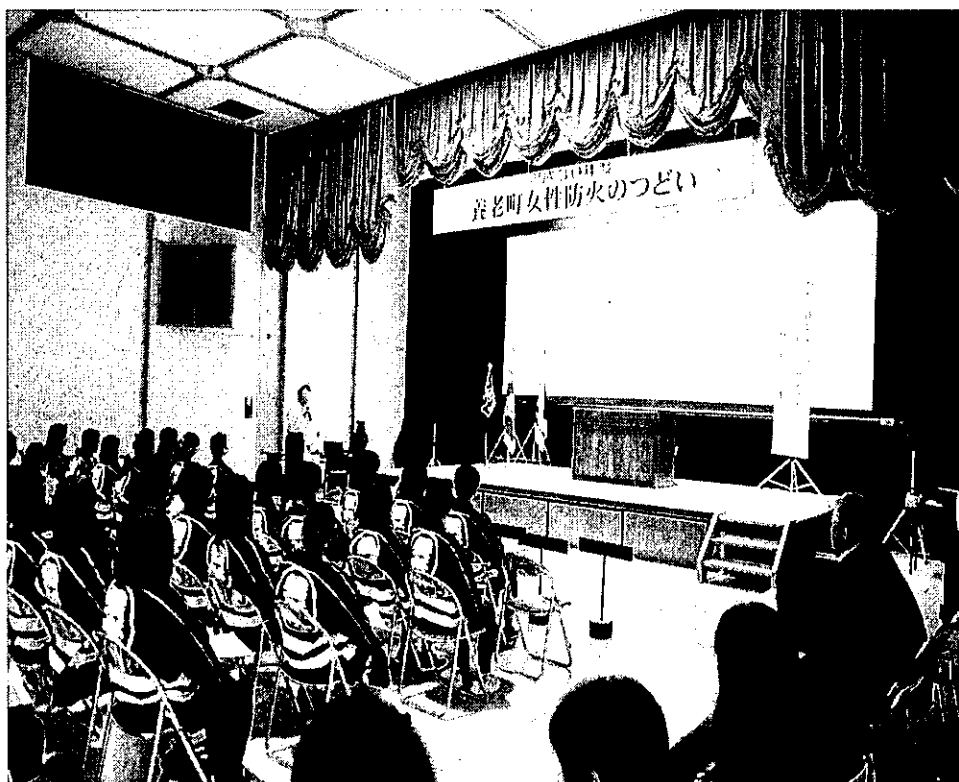
月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
湿度	最高	99.4	98.8	99.1	99.1	99.1	98.8	98.8	98.6	99.4	99.1	99.1	99.4	99.4
	最低	36.3	27.7	23.6	20.8	15.5	29.4	35.5	30.8	38.8	39.1	35.0	35.5	15.5
	平均	85.2	75.8	73.8	73.9	75.6	80.6	79.8	76.5	88.2	81.2	80.9	86.3	79.8

月 別 気 温 表



月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
気温	最高	12.5	14.6	24.1	29.0	30.0	34.2	38.1	37.7	33.0	27.5	21.8	19.0	38.1
	最低	-3.7	-3.8	-0.3	2.0	7.6	13.9	21.5	17.9	15.6	9.2	3.0	-1.4	-3.8
	平均	3.1	3.6	9.6	15.1	18.6	22.5	28.6	28.6	22.7	17.8	13.0	7.2	15.9

女性防火クラブ



女性防火クラブ連絡協議会役員名簿

H31.4.1

養老町女性防火クラブ

会	長	大	橋	園	子
副	会	安	田	里	巳
	"	小	川	春	佳
幹	事	中	嶋	五	月
	"	大	橋	和	子
委	員	瀧	谷	美	也
		子			

(分 会 長 名)

下	笠	第	1	分	会	田	中	希	代	子
下	笠	第	2	分	会	澤		真	美	
栗	笠			分	会	田	中	美	紀	
船	附			分	会	黒	田	喜	美	子
大	野			分	会	近	藤	明	子	
室	原			分	会	後	藤		恵	
桜	井			分	会	瀧	谷	真	紀	
池	辺			分	会	松	葉	か	お	り

養老町女性防火クラブ連絡協議会分会及び会員数

H31. 4. 1

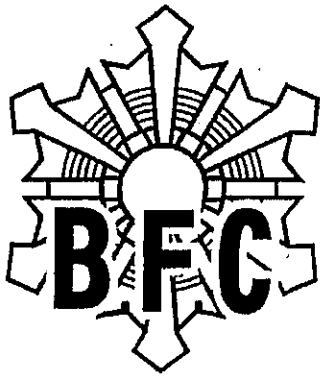
分会名	会員数	会 員	準会員	合 計
下 笠 第 1 分 会	35	67		102
下 笠 第 2 分 会	52	261		313
栗 笠 分 会	17			17
船 附 分 会	68	80		148
大 野 分 会	75	32		107
竈 原 分 会	13			13
桜 井 分 会	33	4		37
池 辺 分 会	194			194
合 計	487	444		931

各分会において年間行事計画を作成し、家庭を始め各地区の火災予防に全力を尽くしております。

- | | | |
|-----|----------------|-------------------|
| 主に、 | 1. 消火栓操法 | 1. 規律訓練 |
| | 1. バケツリレー | 1. 防火座談会 |
| | 1. 人工呼吸法 | 1. 炊き出し訓練 |
| | 1. 救急法 | 1. 空き缶コンロ講習会 |
| | 1. 軽可搬ポンプ操法 | 1. 夜まわり |
| | 1. 消火器使用方法 | 1. 他町村女性防火クラブとの交流 |
| | 1. 防火映画会 | 1. 全員参加による防火研修会 |
| | 1. 地震に対する知識の向上 | 1. その他、消防団行事に参加等 |

が、主な活動内容です。

少年消防クラブ



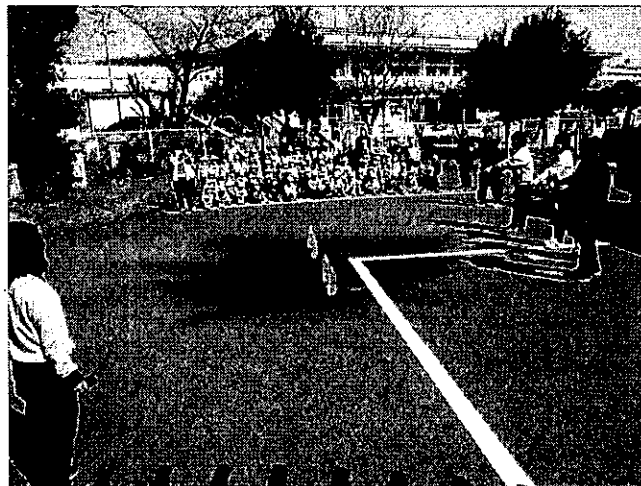
少年消防クラブ員章



幼年消防クラブ



幼年消防クラブ員章



少年消防クラブ名及びクラブ員数

養 老 町

H31. 4. 1

ク ラ ブ 名	ク ラ ブ 員	担 当 教 師
東 部 中 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	133	高木 幸優
上 多 度 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	72	福井 清治
日 吉 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	30	片山 咲希
広 幡 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	11	杉野 久美
養 老 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	90	渡邊 真知子
池 辺 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	77	田中 要子
養 北 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	68	森 俊郎
笠 郷 小 学 校 少 年 消 防 ク ラ ブ	6	橋本 和也
合 計	487	

幼年消防クラブ名及びクラブ員数

H31. 4. 1

ク ラ ブ 名	ク ラ ブ 員	園 長
池 辺 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	90	若山 章人
養 老 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	108	若山 義郎
日 吉 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	57	桑原 富夫
船 附 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	66	大橋 紀元
こ ぼ と こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	38	菱田 弘子
広 幡 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	63	日比 ひろみ
養 北 こ ど も 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	97	西脇 千恵子
め ぐ み 保 育 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	44	寺倉 正浩
下 笠 保 育 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	110	児玉 法彰
よ う ろ う 保 育 園 幼 年 消 防 チ ビ ッ 子 ク ラ ブ	23	木村 真
合 計	696	

火の用心 7つのポイント

1. 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
2. 寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
3. 天ぷらを揚げるときは、その場を離れない。
4. 風の強いときは、たき火をしない。
5. 子供には、マッチやライターで遊ばせない。
6. 電機器具は正しく使い、たこ足配線はしない。
7. ストープには燃えやすいものを近づけない。

火事 救急 は 119 救助

テレホンサービス (0584) 32-3344
救急医療情報センター (0584) 32-3799

養 老 町 消 防 本 部

消 防 本 部 養老消防署	〒503-1392 岐阜県養老郡養老町高田798番地 TEL (0584) 32-0012 FAX (0584) 32-2004 ホームページアドレス http://www.yoro-gifu.jp/
南 部 分 署	〒503-1274 岐阜県養老郡養老町瑞穂379番地1 TEL (0584) 37-2203 FAX (0584) 37-2513
上石津分署	〒503-1622 岐阜県大垣市上石津町上原1370番地1 TEL (0584) 45-3004 FAX (0584) 45-3027